

# 桐生倶楽部会報

〒376-0035 桐生市仲町2-9-36 社団法人 桐生倶楽部 TEL 45-2755



## ことしも華やか文化祭 ガーデンパーティーは大盛況

桐生倶楽部の文化祭がことしも5月21日、22日、23日の3日間、開催された。

絵画、写真、俳句など、社員の日ごろのたしなみが一堂に会す機会として、多くの人たちの楽しみとなっている展示会は、今回も見ごたえのある作品がそろった。

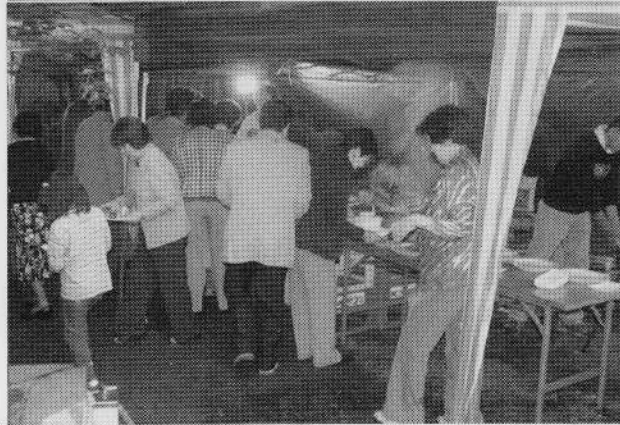
またことしは、ガーデンパーティーが100人を超す参加者でにぎわいをみせた。どんよりと曇って、模様を眺めながらの準備となったが、早めの決断によってテーブルをテラスに移動。始まるこ

ろには本降りとなったが、多少窮屈ながらも、互いの距離がより縮まって、話は弾んだ。

鉄板焼きやてんぷら、すし、そば、ワインやジュースもたっぷり用意され、やがて話の輪は館内へと移動し、広がっていった。

ことしのパーティーには、民謡の出し物も用意され、藤本秀夏会社中(押見武子代表)の三味線と踊りが優雅に流れた。また当日は、協賛行事として行われた囲碁大会、麻雀大会、ゴルフコンペの結果が発表され、賞品が手渡された。

写真でつづる文化祭



▲絵画、写真など、社員やその家族の力がずらりと並んだ

◀あいにくの雨となったが、簡易テントの下で、さまざまな料理がふるまわれ、終始にぎわいをみせた。

藤本秀夏会社中による  
民謡、踊りの披露▼





乾杯の音頭で祝宴開始

## 文化祭協賛・各部会大会

- 〈囲碁大会〉優勝 福永 儀一  
準優勝 岡田 光弘  
(平成16年5月1日、桐生倶楽部6号室、参加者5名)
- 〈ゴルフコンペ〉優勝 森田 良徳  
準優勝 上野 武夫  
(平成16年4月18日、桐生カントリークラブ、参加者6名)
- 〈麻雀大会〉優勝 養田 隆  
準優勝 酒井 豊  
(平成16年5月15日、雀荘「川内」、参加者8名)

## 新緑の物語山に遊ぶ

「物語山」は、近頃発表された「群馬100名山」に選ばれている西上州の名峰である。5月9日、どことなく人を惹きつける響きを有する、この「物語山」に行こう…と桐生倶楽部に参じた者15名。

6:30、定刻どおりに出発。今日の天気予報は、「曇りのち雨」車中でも、「山から下りてくるまでは、(曇り空が)もっていて欲しいね…」と、皆さん、天気の方が気がかりの様子。

伊勢崎ICから北関東道にのり、バスは快調に下仁田ICを目指す。途中、甘楽SAで休憩しながらも、8:00には「サン・スポーツランド」の駐車場に到着。幸いにも、雨はまだ降ってこない。

8:15 全員身支度を整え、いざ出発。ところが、この駐車場から登山口までの林道歩きの長いこと。前回、この山に来たときは、登山口まで強引に自動車を乗り入れたので、この林道がこんなに長かったとは、覚えておりません。それでも、右に清々しい流れの沢を楽しみながら、若々しい芽吹きの新緑の中を歩くのは、至極満足である。

歩くこと、約45分…登山口に到着。そして、雨もぱらつきだした。

「山の中に入ってしまうえば、そうは濡れないさ…」と、急登に取り付くが、江泉さんは、ここで、大休止となってしまった。

皆さんは、頂上をめざし、歩きにくい急登を頑張るが、雨足は次第に強さを増してくる。途中で「頂上を制覇する」か…、「断念する」か…、皆さんの意見を求めると、大勢は「制覇」組。私は、この雨の中で大休止中の江泉さんが心配になり、他の2名と一緒に下りることにした。雨は、結構、大降りである。

バスへ…バスへ…と林道を下っていくと、江泉さんに追いついた。「断念」組は駐車場に戻り、私と森口さんは、早速ビールを口にしながら、「制覇」組の帰りを待った。

それにしても、「制覇」組の皆さんの足の速いこと…!もう一本ビールに手を出そうかな…と迷っているうちに、皆さん、続々と、ご帰還。まあ、何人かの人は、雨の中を急ぐあまり、ズボンのお

尻部分に泥が付いていたけれど…。

全員が無事揃ったところで、いよいよお楽しみのお風呂。今回の山行担当は私だから、私の独断で、1時間の入浴タイムと1時間の宴会タイム…と設定して、ユツタリと、お風呂とお酒と食事とおしゃべりを楽しんだ。

中里さん、ごめんね…!

あっ、そうそう…お風呂の報告も。お風呂は、下仁田町が経営する「荒船の湯」です。私は、初めて寄ったお風呂ですが、こじんまりとしていて、お湯もきれいで、あんまり混んでおらず、しかも時間制でないため、ユツクリできて、結構お勧めできます。

お風呂も入った…お酒もいただいた…お腹もいっぱいになった…。さあ、帰りましょう…!ああ～、毎日が、こんな満足する日々ならいいなあ…と、少々こぼしながら、帰りはバスの中で、夢現…。

途中、「藤岡ハイウェイオアシス」で、お土産を買う人…またまた、お酒を買う人…。何となく、こういう時に、その人のほのほのとした人柄が見えてくる…って気がしませんか?

そんな和やかな雰囲気にもドブクリと浸っているうちに、予定よりも、およそ1時間半も早く桐生倶楽部に着きました。

5月の月例山行も、無事、終了…。

さあ、皆さん、6月の月例山行は、「智恵子抄」で有名な「安達太良山」ですよ…!

みんなで、本当の空を見に行きましょうよ…!

(狩野記)



4月 月次会報告



花見と落語と  
ワインとパン

4月の月次会は、満開のサクラと落語とワインとパンを楽しもうというよくばり企画。3日、会場には50人近い人たちが集まった。

サクラの咲き始めが早かったことし、お花見の宴まで持つのかと関係者をやきもきさせたが、大風が吹くこともなく、花の寿命の長い春になったのが幸いし、窓辺から見る夜桜が格別の味わいをかもす中で、おなじみの栗田詔三さんのワインと赤石清安さんのパンが、テーブルを飾った。

加えて今回は余興に落語が用意され、群馬大学工学部の落語研究会から痔家慰安（じゃいあん・篠ヶ瀬猛）さんと秋風亭かほちゃ（窪田舞子）さんが特設高座にのぼった。

とはいえフレッシュな2人である。人生経験豊富な人たちに前にさすが緊張気味。そんな雰囲気を知りか、「きょうは花見ですので、特別に春風亭と紹介させてもらいましたよ」と、塚越理事長が絶妙の間でつつこみ。これですっかりほぐれた様子で、次第になれてきた得意の噺で随所に笑いを起こし、花見の宴を和ませていた。

(4月3日2階ホール、参加者46人)

桐生倶楽部はぐるま句会

三月	夕椿ほとりと落ちし白さかな	尾澤
	椿散る宿坊の屋根苔むして	久保田
	岸に落ちせせらぎに落ち白椿	大槻
	落椿昔ながらの水路かな	小池
	彼岸明け逸る心の竿はじめ	有阪
	白絹をゆったり返す椿染め	遠藤
	椿落つ音にめざめし里帰り	吉成

四月	春昼や飴菓子ひねる赤帽子	久保田
	春昼や振り子の長き大時計	尾澤
	独居もよし千金の臘月	大槻
	臘月庭の草木の息づかい	小池
	蓬餅色香真の老舗かな	有阪
	春昼の職員室にひとりかな	遠藤

= 倶楽部だより =

- 【4月】・月次会(桜と落語とワイン&パンを 楽しむ夕べ) (3日)
- ・歩く会例会(大平山ハイキング) (4日)  
雨天のため中止
- ・歩く会世話人会 (6日)
- ・理事会 (12日)
- ・文化祭協賛ゴルフコンペ (18日)  
(桐生カントリー)
- ・行事委員会 (19日)
- ・写真部会 (20日)
- ・はぐるま句会 (26日)
- 【5月】・囲碁大会 (1日)
- ・歩く会例会(物語山) (9日)
- ・理事会 (10日)
- ・歩く会世話人会 (11日)
- ・文化祭 (21~23日)
- ・ガーデンパーティー (23日)
- ・はぐるま句会 (28日)

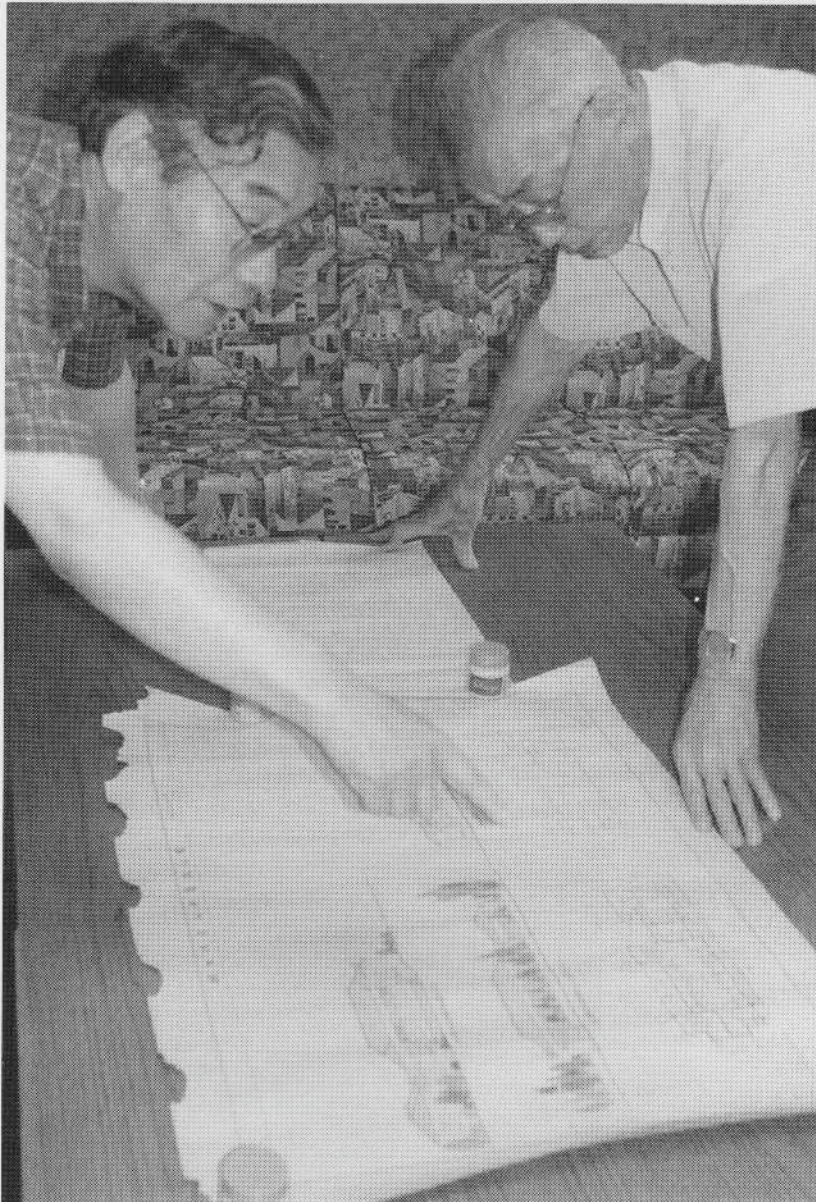
<退社社員>

吉成敏郎(逝去)・土田弘

社団法人 桐生倶楽部会報 第141号
2004年(平成16年) 6月発行
発行人 塚越平人
編集責任者 木村隆夫
印刷 ツボノ印刷株式会社

# 桐生倶楽部会報

〒376-0035 桐生市仲町2-9-36 社団法人 桐生倶楽部 TEL 45-2755



## 桐葉軒 設計図 ゆかりの地へ戻る

創建期の桐生倶楽部に併設され、本格的な西洋料理を市民に提供した「桐葉軒」の建築設計図が、このほど社員の山鹿英助さんから、倶楽部に寄贈されることになった。

山鹿さんは最近これを業者から入手した。

設計者は会館と同じ清水巖さん、直筆の署名がされており、完成図には彩色も施されている。貴重な史料であり、補修をかねて裏打ちして、「展示も可能な形で保存できるように理事会に図りたい」と、小池久雄副理事長は話していた。

## 月次会報告



### 6月はハーブふくいく 北川さん、楽しみ方伝授

6月の月次会は25日、ハーブ研究家の北川やちよさんを講師に招き、「ハーブの楽しみ方」と題し、「からだによいハーブのお話」と「五感を刺激する香の食卓」を、実践的に学び、味わった。

北川さんは、私たちの暮らしと香りの深い関係について語った後、ハーブの楽しみ方一つでいかに豊かな心持になれるか、また、さわやかな気分にあられるかを、もっともなじみ深い料理を通じて、分かりやすく解説してくれた。

この日使ったハーブはすべて、北川さんがこの催しのために朝摘んで、用意してくれたものばかり。

ローズマリーやセージでかおり付けしたワインや、北川絏一郎さんが裏方で腕をふるってくれたハーバルチキン、ルバーブのジャム、タイムのバター、お酒の飲めない人のためのローズマリーのパンチなど、献立がすすむたび、それぞれのテーブルはふくいくとしたかおりに包まれた。

「何か一つでいいから、ハーブを育ててみてください。きっと、日常がかわります」と、北川さん。料理や飲み物ひとつひとつを味わって、ハーブの効果に得心がいった参加者たちは、「やってみようかな」と、うなづいていた。

## 7月は写真講習

### 蓼沼さんが講演

7月の月次会は16日、フォトマガジン代表の蓼沼敏夫さんによるカメラ講習会。「やさしく楽しい写真入門」と題し、基礎知識を学んだ。

蓼沼さんは、コンパクトカメラと一眼レフカメラの使い方からはじめ、三脚の使い方構図のとりかた、そして露出、被写界深度光の基本、シャッターチャンスなど、現場で役立つ知識の数々をていねいに解説。風景写真や花の写真、あるいはクローズアップの話では、実際の作品を参加者に見てもらいながら、大事なポイント



トを取り上げた。参加者の多くはすでにカメラ歴を重ねたベテランぞろいだったが、そこはやはりプロのアドバイスだけに、技術向上のヒントを聞き漏らすまいと、真剣に耳を傾けていた。



## 雄大な裾野のうねり 6月の歩く会・安達太良山

安達太良山は、デンと構えた独立峰である。鳥がさえずる樹林帯をぬけ、振り返ると、なだらかな裾野がちょうど大樹の根のようにゆったりとうねりながら、はるかまちなかへ落ちていた。ほんとうにひさしぶりに見た雄大な風景である。

桐生を朝5時に出て、登山口の奥岳に着いたのが8時半。ここからゴンドラに乗り、およそ2時間歩いて山頂を目指す、というのがこの日の山行で、初めて参加した「歩く会例会」だ。

ふだん、桐生近郊の低山のいそがしい起伏を体感しているせいか、大きな山すそには異次元の感触があり、これだけでも参加した甲斐は十分あったのだが、「たたら」の名をもつ山らしいさび色の土や、またシャクナゲの花、小動物のかわいいふるまい、雪渓、あるいは雲の変化と、前に後ろに空に足もとに、山頂まであきることなく、登山道は私たちを楽しませてくれた。

北の斜面からわきだしてくる雲が、夏の装いにはいくぶん肌寒い風を運んできて、山頂の天候が急変した。6月の雨が冷たいのは、さすがに東北の山である。予定のコースを変更し、雨具を着込んでの帰り道はやや難行となったが、その分、楽しみが倍加するのが温泉だ。奥岳でたっぷりと入浴し、ほどよい疲れにまどろみながら、午後7時

には無事帰桐した。途中の高速道や幹線道、何度となく無謀な運転のはての事故を見た。バス旅行のありがたさをかみしめた一日である。(6月13日、参加者14人、青木記)

## 7月、雨のアヤマ平

尾瀬が近くなりました。今春大間々、沼田線の高槽大橋や楡高トンネルの開通により、桐生倶楽部発5時30分、鳩待峠着8時。新潟豪雨の影響か途中少し雨も降っていましたが、歩き出す頃には、うす日も射す様な天候でしたが、横田代までの登山道は谷川のように水が流れ、さながら沢登りの様な状態でした。横田代からアヤマ平周辺ではキンコウカが黄色く咲き乱れていました。

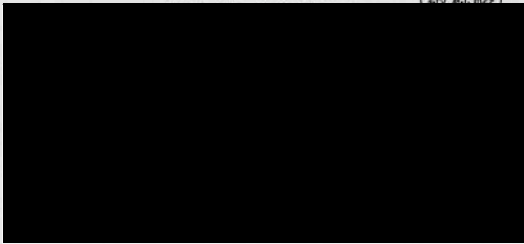
(7月18日、参加者20人)



# ようこそ倶楽部へ

= 新入社員紹介 =

(敬称略)



## 桐生をとりまく 鉄道網を考える

懇話会で曾我さん講演

懇話会の「桐生をとりまく鉄道交通網を考える」  
パートⅡが、26日開かれた。

講演した曾我悟さんは、東武鉄道熊谷線の廃線敷地を利用することで、りょうもう号が都心まで50～70分になるという私案を語り、「長野新幹線開通で廃止された特急ダイヤが空いているいまを逃すと将来の実現は極めて難しくなる」と、最後のチャンスであることを訴えた。

この問題に長年取り組んでいる曾我さんは、「新線建設は、ばく大な投資が必要で実現困難」とし、新たな用地買収をほとんど必要としないJR・東武の相互乗り入れを軸にした提案を通じ、期成同盟会に対して方針転換を主張している。



桐生倶楽部はぐるま旬会

五月

村芝居穂麦の波に幟立つ

小池

高原の牛声遠き夏霞

久保田

金花一樹背山に負ひし峠茶屋

尾澤

居並びて澄ました顔の麦こがし

大槻

湯の宿に八十路集ひて余花の雨

有阪

開通のトロッコ電車余花の駅

遠藤

六月

ががんぼや主人の夜となる

久保田

急流に一步進みし鮎の竿

尾澤

訪ひし風に席あけ根無草

大槻

やはらかき雨に遊びし根無草

小池

渡良瀬の鮎の天敵群れ飛来

遠藤

友釣りや引き抜く鮎は弧を描き

有阪

### = 倶楽部だより =

- 【6月】・歩く会例会「安達太良山」 (13日)
- ・理事会 (14日)
- ・歩く会世話人会 (15日)
- ・月次会 (体にいいハーブのお話し) (25日)
- ・はぐるま旬会 (29日)

- 【7月】・理事会 (12日)
- ・月次会 (楽しく美しい写真の撮り方) (16日)
- ・歩く会例会 尾瀬「アヤマ平」 (18日)
- ・懇話会「桐生をとりまく鉄道交通網を考える」パートⅡ (26日)
- ・はぐるま旬会 (28日)

### 〈退社社員〉

- 町田 孝五郎 ・ 山本 作 幸
- 小泉 正 治 ・ 宮本 勝 正
- 水谷 安 男 ・ 奥田 明
- 山崎 久 志

社団法人 桐生倶楽部会報 第142号  
 2004年(平成16年) 8月発行  
 発行人 塚越平人  
 編集責任者 木村隆夫  
 印刷 ツポノ印刷株式会社





# 桐生倶楽部会報

〒376-0035 桐生市仲町2-9-36 社団法人 桐生倶楽部 TEL 45-2755



## 雨中の一瞬に感動

### 月次会報告 (9月) 黒部・立山・室堂へ

桐生倶楽部9月の月次会は歩く会担当で、9月18日夜から19日にかけて夜行日帰りの日程で参加者33人、予定より早く9時50分、立山黒部アルペンルートに向けて出発した。

今回の心配は天気で、当初の予報が除々に変わり直近予報は18日夜から19日前半は雨。午前2時20分に有磯海SAに到着、でもここまでは雨も降っていない。うまくいけばと期待していた矢先、「雨が降ってきた」と、休んでいた数人がバスの中へ。やや横殴りの雨。よく当たる天気予報がうらめしい。

桂台のゲート前に4時過ぎには到着、開門までに朝食をすませる。6時開門、一路室堂へ向けて上っていく。雨と共にガスが濃くなって視界不良、6時45分室堂ターミナル到着、依然雨と風、視界も悪く、気温も低い、様子を見るため、1時間

ターミナルで休憩。1時間後、雄山登山は断念し、1時間コースのみどり池からみくりが池と雨の中を歩いていくうちに、時々曇りが切れ、青空が瞬間的にのぞくようになる。その青空の鮮やかさと高さに改めて見とれる。

前方谷間には一面、灰色にやけただれ、音をたてて蒸気を噴き上げる地獄谷、神秘的なみくりが池、地獄谷とも伝説なしではすまないところだ。人々の歓声で目を転じるといつの間にか雄山、大汝山など、立山の主峰が上のほうは雲に隠れているが、下のほうから裾野にかけて、点々と朱に染まった秋の彩りが鮮やかに映えており、はるか彼方には富士湾を遠望することができ、私たちをなぐさめてくれた。みなさんが賛同してくれて雨の中散策に出かけたが、ほんとうによかった。

(塩島勇治 記 4面に続く)

特集  
芳名録

近代日本が見えてくる



大正・昭和の名だたる人びと

桐生タイムスで連載中だった「名だたる人びと」が、60回をもって終了しました。

1919年に完成した桐生倶楽部の会館は、大正・昭和期を通じ、「桐生の客間」として、このまちを訪れた多くの著名人を迎え入れ、もてなしてきました。倶楽部の設立当初から常務理事として活躍した前原準一郎は、20年9月に「芳名録」を思い付きました。以来、来訪者の記録は2冊、500以上の署名として残っています。連載は、この芳名録をたどりつつ、署名の主はどのような人物だったか、03年7月26日から04年9月25日までの毎週土曜日、直筆と共に紹介されたもので、

貴重な直筆で  
来訪の記録

# 桐生の力、人脈の象徴

## その厚みは脈々といまも

登場したのは次の人びとでした。

憲政の神様・尾崎行雄、降伏文書的全権・重光葵、庶民宰相・若槻礼次郎、徳川の17代・徳川家正、帝国教育会長・沢柳政太郎、蔵相・井上準之助、俳壇の巨星・高野素十、飛行機王・中島知久平、入れ墨大臣・小泉又次郎、深海王・片岡弓八、引き際の美学・石橋湛山、婦人解放運動の先駆け・神近市子、郷土の首相・福田赳夫、中道の核・芦田均、辣腕知事・大芝惣吉、弓聖・阿波見鳳、明確な政治信条・中曾根康弘、世界的な伝道師・賀川豊彦、学者知事・蜷川虎三、国粋学者・安岡正篤、陸軍中尉・新井亀太郎、無双の能弁家・永井柳太郎、婦女子教育・大妻コタカ、新憲法の産婆役・金森徳次郎、天皇機関説排撃・菊池武夫、誤導事件の文相・松田源治、海軍大将・大角岑生、陸軍皇道派リーダー・荒木貞夫、2・26事件に関与・満井佐吉、司法相の見識・小原直、文士の生きざま・片岡鉄兵、上野動物園長・古賀忠道、雪中行軍とのえにし・山口十八、とんち教室・長崎抜天、時事放談・小汀利得、政治家・俵孫一、民政党重鎮・町田忠治、血が通う名作・長谷川伸、鎌倉文士・久米正雄、駒込ピペット・二木謙三、教育一路・木内キヤウ、製紙王・大川平三郎、政治家・安藤正純、工学者・高松豊吉、共生・椎尾弁匡、政治家・須永好、日銀総裁・深井英五、伯爵・柳原義光、政治家・片岡直温、自由学園・羽仁説子、自由民権家・小久保喜七、外交官・佐分利貞男、政治家・榎橋渡、粋の人・平山蘆江、政治家・河上丈太郎、金メダリスト・山下治広、哲学館・中島徳蔵、帝国ホテル・林愛作、近代華道・勅使河原蒼風、ムッソリーニの友・下位春吉。

むろん芳名録には、政治家や学者、教育者、実業家、運動選手、作家、棋士など、まだまだたくさんの著名人が筆跡を残しています。

ほんの一例ですが、工学系では、造船の塩田泰介と航空研究の斯波忠三郎が、日本の工業の近代化に尽くした東大教授の加茂正雄とともに訪れています。この顔ぶれをだれがどのような目的で招

いたのか、詳細は定かではありませんが、いずれにしても、時代の最先端の話がそこではきっと繰り広げられていたはずで、桐生の人びとの感度の良さ、好奇心がしのばれる組み合わせです。

歴史学の中村孝也、経済学の平沼淑郎、土方成美、中山伊知郎、社会学では「カント、コント、トンゴ」と称された建部遜吾、会計学の高瀬荘太郎、商学の上田貞次郎、島田孝一、文学の綿貫哲雄らの名も。

来桐した人びとを分類すると圧倒的に多いのは政治家です。村田省蔵、膳桂之助は著名な実業家ですが、桐生へ来たときは政治家でした。植原悦二郎、内ヶ崎作三郎、助川啓四郎、島田俊雄、鈴木富士弥、岸信介。国政ばかりでなく、地方政治の著名人が多いのも芳名録の特徴の一つです。

続いて官僚。芳名録第2集の題字の筆をとった藤沼庄平(第1集は沢柳政太郎)は東京都の第4代長官。戦前の群馬県知事だった牛塚虎太郎や金沢正雄、堀田鼎。外交官は須磨弥吉郎、堀内謙介など。軍人では佐藤鋼次郎、伊豆凡夫、海軍大將中村良三、陸軍中尉四天王延孝、香月清司。宗教家では小林正盛、救世軍の山室軍平、裁判官霜山精一。作家は今日出海、内山憲尚、藤原審爾、井上康文、教育者の及川平治、井上孝子。異色の来訪者としては、早稲田速記の考案者、第一次南極越冬隊員、鎧兜研究の第一人者などがいます。

時の人、あるいはその時代をまさに担っていた人びとを、先人たちは積極的にこのまちへ招きました。ですが、日本の近代の歴史が見えるほどの顔ぶれで埋まった芳名録が、それほど簡単にできるはずはなく、あらためて、桐生の力と人脈の広さ、そのことを思わないではいられません。

桐生とはすごいまちだと、芳名録は物語っています。むろん過去の話ではなく、そこに象徴される文化の厚みは、いまも私たちのところに脈々と流れています。(文中敬称略)

＝ 新入社員紹介 ＝



圧巻だった大瀑布

(1面より続く)

10時前に室堂を出発、称名滝へ向かう。天候は皮肉にも回復し晴れ間が広がってきている。本当に数時間のずれがあれば、計画通りの行動ができたのに残念…。

駐車場からダラダラのやや登りの道を約30分歩き、滝の見晴らし台へ。立山連峰を源流とする落差日本一の大瀑布称名滝、4段に折れ、350mを流れ落ちる迫力に圧倒される。大理石のように磨き上げられた岩肌、見上げる頬にかかる水しぶきが心地よい。ここで昼食タイム。

12時過ぎ立山博物館へ回り、立山信仰の世界とその舞台となった立山の自然の成り立ちと人間とのかかわりを、数々の信仰と伝説の紹介など、展示品を通して興味深く見学したのち、午後1時、一路桐生へ向けてスタート、順調に走り、6時40分桐生倶楽部に帰着した。天候悪化のため、スケジュール変更を余儀なくされ誠に残念でした。みなさんの温かいご協力誠にありがとうございました。そして810キロの旅、本当にお疲れ様でした。

桐生倶楽部はぐるま句会

七月

磯涼み遠き漁火数へつつ	久保田
空蝉のみなぎる力残しけり	大槻
客ありて大暑の墓に案内せり	小池
川風に瀬音の乗りて橋涼み	有阪
高層のビル焼き尽くす大暑かな	尾澤
空蝉のしつかり抱く大樹かな	遠藤

八月

白むくげ一輪ありし忌日かな	小池
縄文の丘まだ覚めず天の川	久保田
花魁の墓とや小さし鳳仙花	遠藤
鳳仙花弾けしあとのしじまかな	大槻
自動ドア出れば晩夏の街明かり	尾澤
夏深し湧き立つ雲の甲子園	有阪

＝ 倶楽部だより ＝

- 【8月】・理事会 (9日)
- ・歩く会世話人会 (10日)
- ・はぐるま句会 (26日)

- 【9月】・理事会 (13日)
- ・歩く会月次会 (立山、黒部アルペンルート) (18~19日)
- ・歩く会世話人会 (21日)
- ・はぐるま句会 (28日)

〈退社社員〉

(株)小川建設 群馬支店

社団法人 桐生倶楽部会報 第143号  
 2004年(平成16年) 10月発行  
 発行人 塚越平人  
 編集責任者 木村隆夫  
 印刷 ツボノ印刷株式会社



# 相生倶楽部会報

〒376-0035 桐生市仲町2-9-36 社団法人 相生倶楽部 TEL 45-2755

## 折々の出会い

芳名録から

相生倶楽部が折々の出会いを重ねてきた人びとを芳名録からたどります。

### 昭和17年3月21日来桐

なか ひら りょう ぞう  
**中 村 良 三**  
 (1878~1945)

幕末・明治維新では幕府方とみなされ、新しい日本の主流から外れた奥州各地。西郷従道以降、薩摩閥で固められていた海軍に、大正元年、初めて福島出身の海軍大將が誕生した。出羽重遠である。

その後岩手の斎藤実、山形の下山源太郎、岩手の山屋他人、山形・黒井悌次郎、岩手・栃内會次郎と続き、昭和9年3月、中村良三が青森出身者としては初めて、海軍大將となった。

弘前生まれの中村は明治32年に海軍兵学校を卒業し、扶桑、明石、香取、安蘇、八雲、筑波などに乗艦。軍令部参謀、イギリス駐在武官をへて海大校長、第2艦隊司令長官を歴任し、大將にすすんで軍事参謀官兼艦政本部長をつとめた。また米内内閣時代には内閣参議にも就任。桐生へやってきたのはこのころだ。

とても勉強熱心で、非常に頭のいい人だったという。

東北出身の海軍大將はほか



に、岩手・米内光政、岩手・及川志志郎、山形・南雲忠一、宮城・井上成美がいる。

### 昭和16年9月29日来桐

やま がみ はち ろう  
**山 上 八 郎**  
 (1902~1980)

甲冑・武具研究の第一人者として、海外にも知られた。

山上は、日本甲冑の特色について、中国や西ヨーロッパの甲冑と比較し、「日本の甲冑は実用上の諸問題を十分に考慮している外に、美と品の二点を忘れていない点が面白い」といい、立物の種類について次のように書いている。

「動物を象ったものでは竜と獅子とが有名であります、そのほか猪・兎・狐も多く、鳥類・魚類がこれにつき、また虫類を象ったものには蜻蛉・蟻螂・亀などが著わられています。蜻蛉を用いたのは、この虫が前へ進んで後へ退くことのないのを武士の精神にたとへて喜んだもので、蜻蛉を勝虫と称しているのもこれに基づきます。なお佐竹義宜が兜の前立に毛虫を用ひたのもこれと同巧異曲のもので、古来日本武士が攻撃精神を尚び、卑怯未練を排斥した気分をまことによく現わしているものがあります」

昭和3年に発表した「日本甲冑の新研究」で学士院賞を受賞。「英文日本甲冑」「日本甲冑100選」など、多数の著書がある。



# 心ゆくまで和の風情

## 尺八・三絃でお月見演奏 吉岡さん・富元さん、息ぴったり



10月の月次会は「お月見の夕べ」。尺八演奏家として作曲家の吉岡龍見さんと琴・三絃演奏家の富元清英さんご夫妻をお招きし、邦楽のひとつときを楽しんだ。

桐生では演奏会を通し、すでにおなじみのお二人だ。吉岡さんは72年に尺八演奏家・横山勝也さんに入門し、琴古流尺八師範を許された。92年以降は世界各国で公演会を開催し、02年にはサッカー日韓ワールドカップ協賛公演として韓国古楽器とともにヨーロッパをツアー。その年に韓国KBS放送で古楽器と競演し、好評を博した。

また清元さんは、文化功労者の富山清さんに師事。80年より吉岡さんと毎年演奏会を開催している。日本の文化を考える会「季座」TOKIZ Aなどの団体で邦楽の普及啓蒙活動に取り組み、後進の指導、生涯学習としての琴曲の講座を開講

し、高年齢層の指導にも力を注いでいる。

邦楽ブームといわれるなか、この日参加したのは34人と、月次会としてはかなりの盛況となった。尺八の音色、三絃の響き、ぴったりと息のあった演奏が繰り広げられ、秋の夜、こころゆくまで和の風情を味わっていた。

## 3社員に栄誉

2004年の春の叙勲で、星野幸一さんが教育功労で瑞宝小綬章、佐羽秀夫さんが労働行政功労で旭日双光章を受章。またこの秋には山口隆久さんが、社会保険診療報酬支払基金審査会の専任委員としての功績が認められ、厚生大臣表彰を受賞しました。3社員には2005年新年互礼会の席上で銀杯が贈られます。おめでとうございます。



月次会報告 (11月)

## 曾我さんが講演

11月の月次会は、「実現を、首都に最も近い重要経済圏」と題し、社員の曾我悟さんが長年研究を深めている両毛地域と首都圏を結ぶ高速鉄道網について、お話をうかがった。

曾我さんがかねてから提案しているのは、東武とJR両鉄道網と、JR熊谷駅と東武西小泉駅間に現存する東武廃線敷地を結ぶことで、両社の高速電車相互乗り入れが可能になるという計画だ。

東京都心からのJR電車が熊谷から東武線に乗り入れ、また東武側はりょうもう号が熊谷からJRに乗り入れ、東武の拠点である池袋や新宿へ直通でき、実現すれば、JRにとっても東武にとっても大幅な、距離的短縮につながるという。

両毛圏は国土庁の「両毛地域整備基本計画」で、北関東第4の中核都市圏としての整備と、東京大都市圏諸機能の代替・補完など、重要な役割の発揮に大きな期待が表明されている地域。しかし都心に60~100キロ圏にありながら、東北・上越新幹線のはざまのため、潜在力の発揮が阻害されている。このため、埼玉と群馬を結ぶ軌道新線建設が提唱されているが、これには莫大な投資が必要とされ、なかなか現実的な話にはなりにくい。

この点で曾我さんの案は、バラバラに存在する二つの鉄道を廃線敷地で結ぶ計画だから、話さえ

# 高速鉄道網は いまこそ好機 JR・東武を廃線敷地で結ぶ

まとまれば、実現にかかる費用も時間も大幅に節約できる。乗り入れに関して最大の障害だった熊谷と都心の間の過密ダイヤは、長野新幹線の開通とこれに伴う在来特急の整理や、また、貨物線の全線複線化の実現によって、まさに条件が整いつつあるという。

曾我さんはこれまでに、JRあるいは東武鉄道の幹部と会い、この計画案を説明してきた。クリアしなければならない幾つもの課題がそこでは示されたが、しかし、たいへん関心を持って耳を傾けてくれたといい、実現へのかぎは、あとは関係地域の熱意いかんだと考えている。

とりわけ、JR側の条件整備の進ちょくは、決して東武の乗り入れを念頭に置いた構想ではなくて、独自の高速電車の運行が主眼だ。このままいけば、いずれまた、東武が乗り入れる余地はなくなってしまうと、期待感と同時に、危機感も抱いている曾我さんだ。

この計画をなんとか現実のものとして地域全体の浮上と発展を図りたいという願い。この日の参加者からは、その熱弁にこたえるように、「この案を夢で終わらせないために倶楽部のバックアップを求める」などの声も出た。(2階大ホール、参加者26人)



# 白駒池と八千穂高原

## —10月の歩く会—

悠々と裾野を広げる北八ヶ岳の自然と紅葉を求  
めての散策です。定刻6時参加者22名を乗せて  
バス発車。八千穂村から国道299号線へ。麓では  
紅葉が始まったばかり、尾根の方ではおそいくら  
いでした。

予定より早く8時45分に白駒池入口の駐車場  
に到着、早い時間にもかかわらず、すでに駐車場  
にはかなりの車が入っていました。さすが観光地  
です。

白駒池は標高2,115メートルの所にあり周囲約  
1.8キロの小さな湖ですが日本三大原生林の一つ  
と言われている森に囲まれて静かです。残念ながら  
紅葉はもう終わっていました。

一周約1時間の散策を楽しんでバスは11時15  
分八千穂高原自然園に向けて発車、日本一の白樺  
林に囲まれた園内を約1時間半、自由散策、秋の  
高原気分を存分に味わう事が出来ました。

帰途近くの駒出池と八千穂村の奥村土牛美術館  
に立寄る事にしました。水がきれいな事で知られ  
る駒出池を30分程散策し、奥村土牛美術館へ14  
時到着、大東亜戦中戦後の4年間八千穂村に疎開  
し、また現代日本画壇の最高峰にいた奥村画伯の  
43点に及ぶ素描を鑑賞したのち近くにある画伯  
ゆかりの黒沢酒造「ギャラリーくろさわ」に立寄  
り、地酒やたくさんのお土産を手には帰途に着きま  
した。さわやかな秋晴に恵まれた内容の濃い有意  
義な一日でした。(後藤記)

### 鳴神山はふもとで断念

歩く会11月例会「ふるさとの山鳴神山」は雨  
に見舞われ、吹上バス停でしばらく様子を見たが  
雨天中止と決まり、折返しのバスで帰って来まし  
た。

### 桐生倶楽部はぐるま旬会

九月

神鈴の爽やかにして二人連れ	久保田
爽やかな会釈に譲る山路かな	遠藤
いわし雲広げて浅間煙立つ	尾澤
人の名を忘れしままや鰯雲	小池
鰯雲愛竿一投竿仕舞	有阪
爽やかや無事出産の報せあり	大槻

十月

青きもの失せし菜園秋深む	久保田
蝗採る母の手早し幼き日	小池
笑み栗や少年二人変声期	尾澤
引売りのともしび一つ秋深む	遠藤
思ひ切り跳ねて日向へ穂の粟	大槻
秋晴れや庭師鉄の音冴えて	有阪

### = 倶楽部だより =

- 【10月】・理事会 (12日)
- ・月次会「お月見の夕べ」 (16日)
- ・歩く会例会「白駒池と八千穂高原」(17日)
- ・歩く会世話人会 (19日)
- ・はぐるま旬会 (27日)
- ・秋季囲碁大会 (30日)

- 【11月】・理事会 (9日)
- ・役員特別懇談会 (10日)
- ・歩く会例会「鳴神山」 (14日)
- ・文化活動委員会 (16日)
- ・歩く会世話人会 (17日)
- ・はぐるま旬会 (25日)
- ・行事委員会 (25日)
- ・写真部会 (25日)
- ・月次会
- 「実現を!都心直通60分の経済圏」(26日)

### <退社社員>

木島 清 丸山幸蔵 石川 篤

社団法人 桐生倶楽部会報 第144号  
 2004年(平成16年) 12月発行  
 発行人 塚越平人  
 編集責任者 木村隆夫  
 印刷 ツボノ印刷株式会社





# 桐生倶楽部会報

〒376-0035 桐生市仲町2-9-36 社団法人 桐生倶楽部 TEL 45-2755

## 折々の出会い

芳名録から

大正10年6月19日来桐

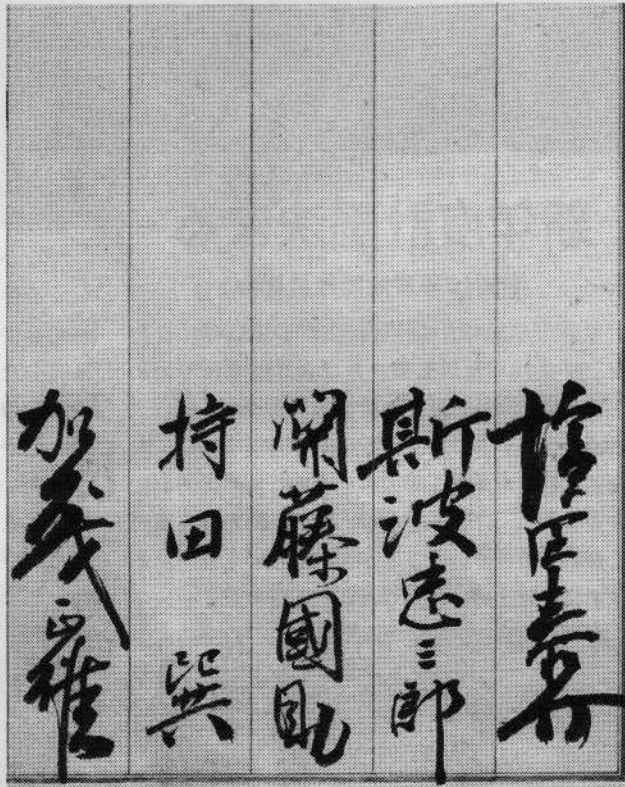
加	塩	斯
茂	田	波
正	泰	忠
雄	介	三郎
(1876~1959)	(1867~1938)	(1872~1934)

1938(昭和13)年5月13日、東京帝国大学附属航空研究所の飛行機が、未知の領域をめざして木更津の旧海軍飛行場を離陸した。コースは銚子を経て太田の中島飛行機上空で左旋回し、平塚海岸の航空灯台を回って基点に戻る1周400キロ。これを62時間で29周し、15日、機は着陸した。総飛行距離12000キロ、平均速度記録186キロという世界記録が、日本で生まれた瞬間である。

「航研」は大正7年に大学の付属研究所として設立された。大震災で建物が崩壊し、駒場に再建された施設の中で所員を勇気付けようと、当時所長だった斯波忠三郎がぶちあげたのが、世界を狙える飛行機づくりという遠大な構想だった。

斯波は石川県生まれの工学者。欧州で船舶機関学を研究し、わが国初の海底電線敷設船の設計を手がけたほか、満鉄の技術指導などでも活躍したが、夢は研究所で受け継がれ、世界記録は樹立された。斯波が亡くなって4年後のことである。

桐生倶楽部には学者仲間とやってきた。加茂正



## 世界記録を生み出す力

雄は愛媛県出身の東京大学教授。工学に関する国際会議にはわが国代表として数多く出席した人である。日本の工業近代化に尽力し、日本経営士会創立と同時に会長に就任した。専門は熱機関。

塩田泰輔は造船事業家。東京帝国大学を卒業後に三菱合資会社に入り、三菱造船会社の設立とともに常務取締役選ばれ、のちに顧問となった。

この日の芳名録は、前ページで子爵・奥田直恭が日付入りの署名を残しており、5人はおそらくその一行である。ほかの2名のうち、持田巽は富士紡績の関係者か。残るひとり「関藤國助」と読めるが、人物の特定にはいたっていない。

5人は、年長者から筆を持ったようだ。

平成17年度定時社員総会



を取り巻く諸情勢について」と題して講話を行った。

このなかで佐藤会頭は、桐生と周辺市町村との合併の話し合いの経緯と産業界のかかわりについてふれ、「大同合併を望む立場からお手伝いしてきたが、桐生・新里・黒保根の1市2村と、大間々・笠懸・東の2町1村、そして藪塚本町の桐生広域圏からの離脱という結果になって残念だ」と、思いを明かした。

## 新年度計画決まる

### 平成17年度定時社員総会

平成17年度の定時社員総会が1月31日に行われ、平成16年度決算報告及び会計監査報告、また新年度事業計画及び予算案を承認した。

総会であいさつに立った塚越平人理事長は、国内外で起きた昨年1年のさまざまな自然災害を振り返り、「いがみ合うのではなく、お互い人間同士が助け合っていくことが大事だという警告だと謙虚に受け止め、頑張りたい」と語った。

2町1村の首長と個人的に話をすると、みな大同合併を望んでいたという。しかし、政治の力学でなかなかその思いが一つにはならなかった。

合併の実情が市民に見え始めてからは、広域圏の合併を後押しする声がたくさん集まったが、そうした民意がまったく生かされなかった。世論と行政の乖離を感じたという。

しかし「新里と黒保根の方々にはたいへんな決断をいただいた」とし、「新しい桐生を立派なまちにしていくために、これからも発言し、かかわっていきたい。ぜひご協力を」と訴えた。



### 「桐生の諸情勢」 佐藤会頭が講話

総会ではまた、桐生商工会議所の佐藤富三会頭が「最近の桐生



新年互礼会

## 飛躍誓い、新年互礼会

平成17年の新年互礼会が1月4日開かれ、53人が賀詞を交歓し、新しい年の飛躍を誓った。

席上、昨年に大臣表彰と叙勲に輝いた4氏に銀杯が贈られ、祝宴に先立ち、宝生流桐生藤門会による謡曲「鶴亀」が披露された。

## 雨の日本橋界限をしつとりと歩く

毎年、「歩く会」12月例会は、桐生倶楽部「美術部会」と共催で文学や美術をテーマに東京近郊の名所・旧跡を散策しており、今年は、変貌著しい「コレド日本橋」を中心に日本橋界限の一日を楽しんだ。

12月12日、本日の参加申込者45名全員定刻までに集合…早速、BUSに乗り込み、いざ、6:00に出発…外はまだ暗く、明るみだすまで、まず仮眠Timeとなった。

皆さんが目覚めだしたところで、本日立ち寄る予定の「浜口陽三美術館」のKey-Pointについて、まず、渡邊先生から分かり易い説明を受け、浜口陽三の先駆的画業に驚く…私なんか、恥ずかしながら、浜口陽三の名すら知りませんでした。続いて、日本橋蠣殻町生まれの谷崎潤一郎の生い立ちと作品の背景について、私から軽〜く、触れてみました。

私にとって、「日本橋蠣殻町と云えば、谷崎潤一郎」というくらい谷崎への思いが強いのですが、桐生に在住した作家・南川潤（実娘の石関是子さんも、今回参加した）も、谷崎に傾倒し、そのペン・ネームも「谷崎潤一郎の潤」だとか…、また、小池久雄・桐生倶楽部副理事長も谷崎の大ファンで、「久緒潤」というペン・ネームを持っていると山鹿さんから伺ったり…、谷崎文学愛好者がこんなに大勢いるとは、嬉しい限りであります。

まっ、そんなこんなで、BUSは無事に東京に着き、まずは、将軍・徳川家光の典医であった岡本玄治の屋敷跡である「玄治店跡」の見学からStartし、「甘酒横町」や「谷崎潤一郎生家跡」を巡り、安産の神様「水天宮」へと足を伸ばす頃には雨も降り出し、皆さん、慌ててコンビニで傘を買い求めていましたが、欲しい時に何でも手に入る便利な時代になりましたね〜！（地球は、大丈夫でしょうか…？）



雨のなかで開館を待ちわびながら、美術館に早めの開館をお願いしたところ、快諾してもらい、15分前に入館できたので、お陰で、私たち「桐生倶楽部ご一行様」は、独占して、ゆっくりと観賞することができました。

ここから再び、BUSに乗り、日銀・貨幣博物館に向かう。この貨幣博物館には、日本で発行されていた貨幣が歴史的に展示されており、いやあ〜、面白い。

日本橋にまわり、「日本道路原標」や日本橋にかけられた渡辺長男作のブロンズ像をあらためて、じっくりと鑑賞した後、いよいよ、今や日本橋の人の流れを変えさせた…といわれている「コレド日本橋」へ…。

やっぱり、お腹が空いてきましたね。いよいよ、昼食Timeを含めたFree-Timeです。「白木屋の井戸」を覗いた後、私たちは何人かと連れ立って、歌舞伎座裏の「銀の鈴」へ…。ここでは、ビーフ・シチューが美味しいようですが、ノン・グルメの私にとっては、ビーフ・シチューよりは、まずビール…！ 次に、日本酒…！ 至極の瞬…！

さて、全員が無事、揃ったところで、またBUSに乗り込み、いよいよ皇居へ…。私にとって、皇居内に入ることは初めてで、小学生のようにウキウキしてくる。さすがに、皇居…手入れの行き届いた庭園や歴史を感じる重厚な雰囲気は、皇居内を歩く者の気持ちを落ち着かせてくれるものです。

午後4時、閉門時刻に追い立てられるように皇居東御苑を出て、再び、車中の人となる。後は、一路、桐生へ…である。いやあ〜、今日一日、結構歩きましたね…。

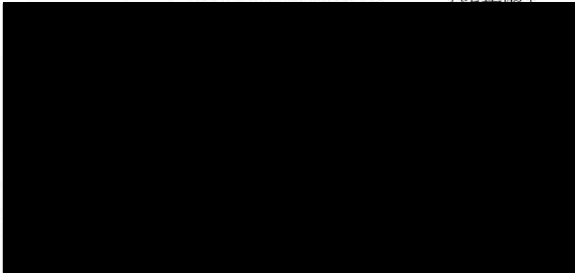
それにしても、あの「甘酒横町」付近で見た、下町情緒たっぷりの家並みの趣は、よかったですねえ…。あの時代の谷崎が羨ましくもあり、emotionalな感性を取り戻した一日でもありました。

(狩野 記)

### 文学と美術の12月例会

# ようこそ倶楽部へ

## = 新入社員紹介 =



## 盛大にクリスマス祭

桐生倶楽部恒例のクリスマス祭が12月4日に開かれ、社員と家族など70人が参加した。

ことしのミニコンサートは、五十嵐晶子さんのバイオリンと山下登美さんのピアノ。クリスマスソングなどで場が盛り上がり、宴はいよいよ本番へ。大西康之さん扮するサンタクロースが登場すると子どもたちは大喜びで迎え、手渡されるプレゼントに歓声をあげていた。

30人で  
1月の歩く会  
吾妻山



歩く会の新春恒例吾妻山。1月9日、29人が参加しました。風もなく穏やかで暖かい陽光のなか、ゆっくりと時間をかけ山頂へ。真っ白な富士山を遠望しながらの休憩の後、村松沢を経て11時半に下山。「そばー」で一年の安全を祈って乾杯し、会食のあと、2月の筑波山での再開を約束して散会しました。(村田記)

桐生倶楽部はぐるま旬会

十一月

退院の目途まだつかず返り花	小池
酉の市運氣呼び込む手締かな	有阪
人波を泳ぎ渡るや大熊手	大槻
参道に手打ひびかせ大熊手	久保田
佳きことがあつて小庭の帰り花	尾澤

十二月

瀧涸れて神住む山の鎮まれし	久保田
溪谷の一縷となりて水涸るる	大槻
佳き日までの折り癖深き古曆	尾澤
いとほしき歳と捨てたし古曆	小池
底見せて吹割の滝川涸るる	有阪
役場跡家敷の跡や萱枯るる	遠藤

## = 倶楽部だより =

- 【12月】・クリスマス祭 (4日)
- ・歩く会例会
- 「東京文学散歩」(美術部会協賛) (12日)
- ・理事会 (13日)
- ・歩く会世話人会 (14日)
- ・はぐるま旬会 (24日)
- 【1月】・新年互礼会 (4日)
- ・歩く会例会「吾妻山」 (9日)
- ・理事会 (11日)
- ・歩く会世話人会 (11日)
- ・はぐるま旬会 (26日)
- ・臨時理事会 (31日)
- ・定時社員総会 (31日)

### 〈退社社員〉

久保田芳男(逝去)・金子 薫(逝去)

社団法人 桐生倶楽部会報 第145号  
2005年(平成17年) 2月発行

発行人 塚越平人  
編集責任者 木村隆夫  
印刷 ツボノ印刷株式会社

# 桐生倶楽部会報

〒376-0035 桐生市仲町2-9-36 社団法人 桐生倶楽部 TEL 45-2755

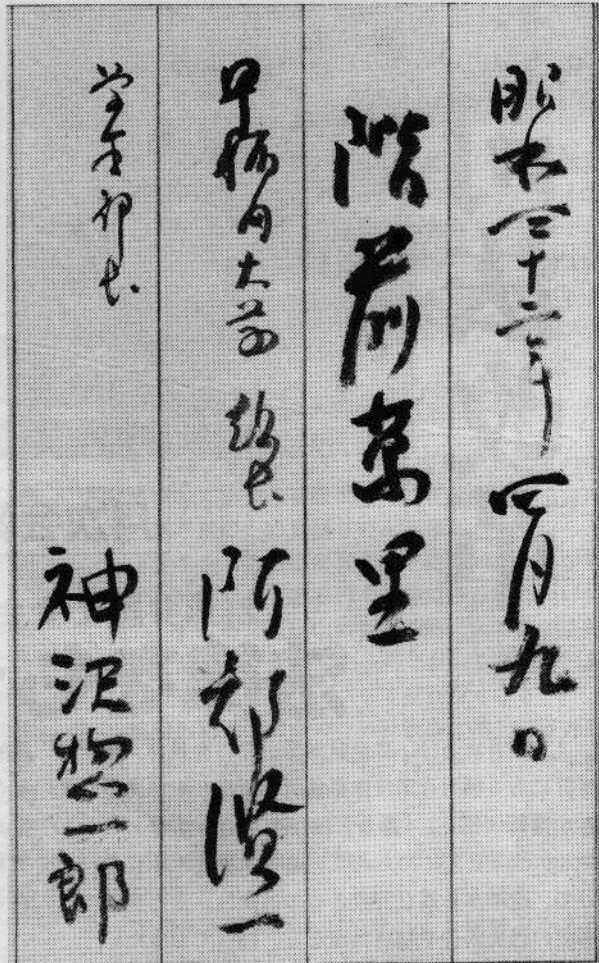
## 折々の出会い

昭和42年4月9日来桐  
阿部賢一  
(1890-1983)

「階前万里」とは、万里の遠きも近く階前にあるという意で、天子が地方政治の得失に通じていることを言い表したものだという。

「個中ノ趣ヲ会シ得レバ五湖ノ煙月尽ク寸裡ニ入ル」ということわざがある。一つの趣をきわめれば、太湖までいかずともその風景を味わったも同然であるという意味で、大と小、遠と近の通じ合いは、いにしへの中国の重要な教えである。

阿部賢一は経済学者。早稲田大学政経学部を卒業し、同志社で講師を務めたのち早大へ移り、その後、徳富蘇峰が主催する国民新聞で記者、東京日日新聞で主筆、戦後は早大で



## 学生は愛すべきもの

教べんをとった。

昭和41年に総長代行として復帰し、この年の9月に総長に就任した。大学紛争たけなわのころである。就任にあたり、阿部は「学生は敵ではない」と話し合いの継続を掲げた。機動隊の手に委ねることなく封鎖解除を成し遂げたこともあり、階前万里は、まさに信念であったようである。

桐生を訪れてからほぼ1年後の43年4月、阿部は大学評議会で辞意を表明した。その直後の記

者会見で、ざっくばらんに心情を打ち明けた。

「けんかしたわけでもないし、放り出されたのでもないし、行き詰ったのでもないですよ。早大騒動のあと始末もついた。だから辞任する、ほんとうにそれだけなんだ」。後任総長へは「学生を愛してもらいたい。どんな学生でも、愛すべきものなんです」と要望。学生たちには「暴力は使わん方がいいな。暴力で解決した事柄はないですから」と、言い残している。

# 進む司法改革



## 月次会報告 (3月)

### 群馬弁護士会会長小林勝さん講演 法律をもっと身近に

3月の月次会は、群馬県弁護士会の会長で、相生町にある桐生合同法律事務所の所長、小林勝さんを講師に招き、「暮らしの中の身近な法律」と題し、着々とすすめられている司法制度改革について、改革が必要な背景とその方向性、また交通事故の過失割合や相続問題など、知っておきたい基礎知識の数々をうかがった。

小林さんはまず、弁護士の数居が相変わらず高いと受け止められていること、裁判所があっても弁護士がいない地域があるように絶対数が足りないこと、また、外国人弁護士の規制緩和など、ルールに基づいて解決していかなければならないことが山積する法曹界の現状にふれ、法曹人口の増員がはかられ、弁護士が身近な存在としてもっと認識され、利用されることが望ましいとした。

具体的な改革では、労働審判制度によって一定の解決策を示す道ができること、さらには行政訴訟に関しても裁判所の考え方が変わり、たとえ間

接的な利益でもいいという方向性が生まれつつある点、また、司法書士や行政書士が一定の損害賠償範囲で代理権を持つなど、具体的な動きについても解説。4年後にスタートする裁判員制度については、裁判所を身近に受け止め、参加してもらい、評決に加わってもらうことで、司法における国民主権を実現しようとするものだと説明した。

加えて、司法支援センターを全国につくろうという動きも始まっていて、これは裁判の相談を気軽に受け付け、必要とあれば費用の貸し付けも行う態勢づくりで、すでに群馬弁護士会でも、設立に向け、準備が順調に進んでいるという。

小林さんはこの後、交通事故における人の命の算定の仕方、また、相続問題などについて、知っておきたい知識をいろいろと伝授。「困ったときはとにかく、専門家に聞いてみる必要があります」と話していた。

(3月29日、2階ホール、参加者20人)



## 眼下を堪能、筑波山

— 2月の歩く会 —

茨城県の象徴で百名山のひとつ筑波山登山と笠間稲荷の参拝です。

朝6時30分に参加者24名で桐生倶楽部より出発。当初予定の20名を越える24名参加のためバスもマイクロバスより一寸大きめのバスになり、車内もやや楽になりました。途中で筑波山の全景が見え、心配された天候も大丈夫な様子に一安心。道路の渋滞も無かったため予定より早めに筑波山神社に到着。

記念撮影、神社参拝後ケーブルカー駅に9時に行ったが、冬季のため始発が9時20分とのことで小休止。ケーブルカー10分で御幸ヶ原に到着、直ぐ前方に雪に覆われた日光連山が見える。まずやや急で岩でごつごつし、踏み固められ凍った雪がのこる坂道を15分登り、男体山頂の神社に到着。一回り景色を見た後御幸ヶ原に戻る。並んだ茶店を横目に女体山頂を目指す。15分後に大きな岩の塊、山頂に到着記念写真を撮り、眼下の景色を堪能する。

下山開始直後の道は岩だらけの急坂の上、雪が凍っていてつるつるの状態の所があり、慎重に一人づつ下りて行く。この先が一寸心配になる。暫く下りると凍った所が減るかわりにぬかるみ状態の道が所々に出現。途中大仏岩、裏大黒、弁慶七戻りの岩等の奇岩、大石を通る。

道半ばの弁慶茶屋を通りすぎ階段状の道が増えてくるとつつじヶ丘のレストハウスの赤い屋根が見えてきた。つつじヶ丘では昼食を取る人、無事の下山を祝してビールを一杯の人、お土産を探す人などいろいろだが、予定より1時間早めの13時に笠間稲荷に向けて無事出発。

その後、笠間稲荷参拝、笠間焼共販センターに寄って18時20分に桐生倶楽部に帰着しました。

天候にも恵まれ、多酒落亭好笑師匠、酒好談論倶楽部、風景陶器観賞同好会、車内睡眠会の面々等多士済々の方々のお蔭で楽しい例会となり、また怪我も事故もなく全員無事に帰着しました。皆様お疲れ様でした。今後の例会にも是非ご参加下さい。(吉田 記)

## 3月例会は大小山へ

朝7時、桐生倶楽部に11人が集まり3台の車に分乗して出発。狩野世話人は花粉症悪化（鬼のかく乱？）のため見送りのみとなる。

トンネルを抜け山道に入ると道の両側に雪があるが、除雪がしてあるので道路はおおむね良好で安心。ところが登山口に行く林道に入ると、道路も積雪があり不安がます。あと少しで登山口のあたりで乗用車はスリップして登れなくなる。

協議の結果、安全のため計画を変更し田沼方面に下山し、途中休憩をかねて福寿草、節分草を観に立ち寄る。

一服後、歩く会の趣旨に則り富田の大小山に登る。こちらは天気も見晴らしも良く手ごろなハイキングとなった。

下山後、足利のお蕎麦屋により解散となった。皆さん長距離ドライブご苦労様でした。特に運転して頂いた江原さん、森口さん、村田さんお疲れ様でした。4月はお花見です、沢山の方々の参加お待ちしております。(吉田 記)





1号室改修余話

持送りに  
「球技室」

改修工事が行われた倶楽部会館1号室で、カーテンボックスの持送りを取り外したところ、部品から「球技室」という墨書きが見つかった。

ここは創建時、ビリヤードが楽しめる部屋だった。このカーテンボックスは丁寧な加工が施された木製品で、小さな持送りだけでも二つの部品を組み合わせる構造で、墨書きは、数多い部品に誤りがないようにという配慮から、隠れる面に走り書きされたものらしい。工事を担当した安達修二さん＝写真＝は「当時の匠の丁寧な仕事ぶりに身が引き締まる思いです」と話していた。

桐生倶楽部はぐるま旬会

一月

初空やベルシヤの海に果つ砂漠	久保田
読初や読み継いできて壇の浦	大槻
寒鴉鳴いて一村風の中	尾澤
成人を祝きてほほ笑む遺影かな	小池
赤城嶺や静かにひとひ初苗	遠藤
読初の新書の香り至福かな	有阪

二月

風を得て野火に野性の戻りけり	尾澤
盆梅の縁に用なき長居かな	久保田
盆梅や小唄一つも口遊む	遠藤
呟きも老のならひや春浅し	小池
遠まきの人出に野火の奮ひ立つ	大槻
河川敷サイレン鳴りて野火猛る	有阪

＝ 倶楽部だより ＝

- 【2月】・歩く会例会「筑波山」 (13日)
- ・理事会 (14日)
- ・歩く会世話人会 (15日)
- ・はぐるま旬会 (24日)
- 【3月】・歩く会例会「大小山」 (13日)
- ・理事会 (14日)
- ・歩く会世話人会 (15日)
- ・美術部会 東京(美術展鑑賞会) (24日)
- ・はぐるま旬会 (28日)
- ・月次会
- 「暮らしの中の身近な法律のお話」 (29日)

〈退社社員〉

両毛ガス事業(協) 柘植 洋二  
津久井 弘 久保田 勝利

社団法人 桐生倶楽部会報 第146号
2005年(平成17年) 4月発行
発行人 塚越平人
編集責任者 木村隆夫
印刷 ツポノ印刷株式会社





# 桐生倶楽部会報

〒376-0035 桐生市仲町2-9-36 社団法人 桐生倶楽部 TEL 45-2755

## 折々の出会い

(万石録から)

1932年11月11日来桐

助川啓四郎

関釜連絡船の崑崙丸が、沖ノ島付近で潜水艦の雷撃を受け、沈没したのは1943年10月5日の午前2時ごろである。鉄道省が、大陸と内地の旅客と貨物の輸送の滞りを解消させる切り札として、半年前に就航させたばかりの高速船だった。

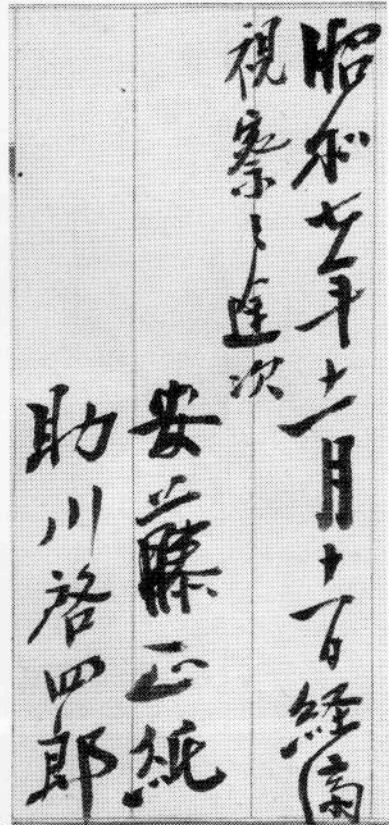
海軍の航空機や近くにいた船舶が救難につとめたが、海上は波が荒く、かつ就寝中のできごとだったため、乗客乗組員583人が死んだ。

代議士の助川啓四郎は、松村謙三の満州農業視察団の一員として、すでに釜山に到着していた松村を、一便遅れの崑崙丸で追っていて、この遭難

年から昭和4年までの15年余、たびたび福島を訪れ、詩画作品を残した。このつながりの発端は大学時代の同窓、助川との親交である。

桐生倶楽部には1932年11月11日、安藤正純とともに経済視察の途、立ち寄った。

崑崙丸を攻撃した米潜水艦ワフーは、日本の商船を約20隻沈め、同国海軍において、エース級の働きをたたえられていた。嚴重に封鎖されていた日本海へ潜入してきたのは、9月の下旬といわれている。



## 崑崙丸の撃沈で遭難

に巻き込まれた。助川は福島県田村郡船引町の出身で、早大を卒業後、農業に携わって衆院議員に当選し、地道に農村行脚を続けつつ問題解決に取り組んで、戦前農政の中心的存在だった。突然の出来事に、団長の松村は言葉を失った。

助川が生まれた船引町の図書館には「夢二ルーム」という施設があり、書画や書籍など30点ほどが、常時が展示されているそうだ。竹久夢二は大正3

崑崙丸を沈めたのち、宗谷海峡から脱出をはかっているところを地上の砲台に発見され、4時間に及ぶ航空機と駆潜艇の激しい攻撃を受け、海中に消息を絶った。下関市の日和山公園には崑崙丸の犠牲者を悼み、また宗谷岬にはワフーの戦死者80人のための慰霊碑が建立され、海で起きた60余年前の出来事への鎮魂の思いを、列島の南と北から、静かに結んでいる。

# 力作ずらり、ボサノバも堪能

## 第31回 桐生倶楽部文化祭

第31回桐生倶楽部文化祭が、5月13日から15日、開かれた。写真、陶芸、俳句、絵画など社員らの力作が今回もずらりそろい、15日のガーデンパーティーでは、ボサノバ歌手の田村ひろさんが

繊細なギター演奏を披露し、75人が楽しいひとときを過ごした。

またパーティーの開会に際し、恒例となっている囲碁、麻雀大会の表彰式も行われた。



和気あいあいガーデンパーティー

田村ひろさんギター熱演





## 参加者みんなで荒山、鍋割 歩く会の5月例会

天気予報とおりの晴天になり、楽しい例会になりそうと期待される。参加者16人、倶楽部玄関前にて記念写真を撮り乗用車に分乗して赤城に向けて出発する。

8時10分に箕輪登山口より荒山高原を目指して登り始める。しばらくすると性格の長短によるのか、仲良しグループによるのか、体力別なのか先頭集団、第二集団、第三集団に自然編成されて進む。ほぼ50分ほどで荒山高原に到着。

少休止の後、栗原世話人の急き立てに従い荒山に向かう。まだ咲いていない“レンゲツツジ”の代わりに咲いていたヤシオツツジを楽しみながら歩き、それぞれのペースで、それぞれの苦しきで最後の急登を乗り越え全員が登頂!!

登頂証拠の写真をとったらすぐ鍋割目指して下山開始する。荒山高原を通り11時30分に鍋割山頂に到着、お待ちかねの昼食となる。腰塚さん始め皆さんの持参したいろいろな惣菜、果物をお腹にしまう頃、空も曇って気温も下がってきたので急いで下山し、13時15分栗原世話人の計画表通りに箕輪登山口に戻る。

今回は小学校3年生の森君から80ウンオの倉林先生まで全員が荒山、鍋割の両山に登頂しました。

その後、“あいのやまの湯”に寄り汗を流して帰途に着く。  
(吉田記)

## 柄杓山で花見 4月

「歩く会」4月例会の柄杓山花見ハイキングは4月10日(日)、参加者11名、雨が心配される空模様でしたが時間経過と共に絶好の行楽日和となりました。8時15分吾妻公園駐車場を出発し公園内の満開の桜と色とりどりに咲きほこるチューリップ畑を巡り吾妻山山頂へ。更に北に向って尾根道を行くと吾妻山と女吾妻の北斜面のカタクリの群生地では今を盛りと咲きほこる愛らしい花に出会うことが出来、思わず歓声が上りました。

村松峠9時55分、岡平10時55分、城山へ11時35分着。桜の花は4～5分咲き。山頂広場でほかほか陽気の下、花見の宴が盛り上がり、13時頃山頂をあとにしました。帰途群大のしだれ桜を觀賞し解散となりました。

(後藤記)





## チェロとピアノの 二重奏心ゆくまで

### 4月の月次会

4月の月次会は「桜の木の下でチェロとピアノのコンサート」。2日、中庭とロビーと2階広間を会場に、56人が参加した。

サクラの花には少しはやかかったが、観桜会はおしゃべりで熱気がいっぱい。ワイン、ビール、焼酎と、それに合う各種食べ物などが用意され、ひとしきり味わってコンサートへ。尾花英昭さんのチェロと須永由紀子さんのピアノの音色をこころゆくまで楽しんだ。

### 写真部会が会合

写真部会は平成17年4月11日(月)午後7時、6号室で会合し、庭園の桜の撮影、文化祭出品等の打合せ、ロビーの写真の交換などを行った。

### 桐生倶楽部はぐるま句会

三月

耕運機天の棚田を右左

尾澤

耕人の影まだ動く日暮かな

久保田

春の川ゆつたりとして遠赤城

大槻

立話つきることなし春の川

小池

年少の子より飛び越す春の川

遠藤

春耕や大地の息吹き揺がりて

有阪

四月

藍染の苦労話や春団炉裏

小池

哲学の径の大樹に轉れる

大槻

轉や午睡の窓は開け放ち

久保田

山吹や石垣積みし峡の家

尾澤

轉りの一際頻り雨上がる

有阪

ただ咲きてただ散ることを花屏風

山田

### = 倶楽部だより =

- 【4月】・月次会「桜の下でチェロとピアノのコンサート」 (2日)  
 ・歩く会例会「柄杓山」 (10日)  
 ・理事会 (11日)  
 ・写真部会 (11日)  
 ・歩く会世話人会 (12日)  
 ・懇話会 (15日)  
 ・囲碁大会 (16日)  
 ・役員特別懇談会 (19日)  
 ・はぐるま句会 (25日)  
 ・麻雀大会 (27日)

- 【5月】・歩く会例会「赤城の荒山・鍋割山」(8日)  
 ・理事会 (9日)  
 ・歩く会世話人会 (10日)  
 ・文化展 (13日~15日)  
 ・ガーデンパーティー (15日)  
 ・はぐるま句会 (25日)

### 〈退社社員〉

鈴木道朗 新井康友  
 田村隆周

社団法人 桐生倶楽部会報 第147号  
 2005年(平成17年) 6月発行  
 発行人 塚越平人  
 編集責任者 木村隆夫  
 印刷 ツポノ印刷株式会社



# 桐生倶楽部会報

〒376-0035 桐生市仲町2-9-36 社団法人 桐生倶楽部 TEL 45-2755

## 折々の出会い

芳名録から

昭和3年10月21日来桐

島 蘭 順次郎

（1877-1937）

医学博士

日本では、19世紀後半から20世紀にかけて脚気が大流行した。栄養障害に原因があることはわかったものの、有効な治療法は見つからず、脚気衝心という心臓発作を伴い、毎年二万人の人が死に、国民病といわれ、恐れられた。

原因はのちに、白米の常食にあることが判明する。玄米や半つき米をたべていた時代には、ほとんどなかった病気だからである。これをつきとめたのが当時27歳だった農芸化学者、鈴木梅太郎で、1910年（明治43年）、米ぬかから抗脚気成分「オリザニン」を抽出した。これが世界で初めて発見されたビタミンである。

んで、日本の醫學者もこの問題を眞面目に考へるやうになった。なかんづく島蘭順次郎博士は、その頃京大に居られて、私の製法によって自ら強力「オリザニン」を製し、多数の脚気患者に試験し、また衝心性の重症患者にも試みて好成绩を得、愈々脚気の主原因はビタミンBの缺乏であると断定された

島蘭は和歌山県出身の医学者で、東京大学を卒業して、岡山医学専門学校、京都大学、そして東京大学で教授を務め、日本初の交換教授としてベルリンで四年間講義し、33年東大付属病院長に就任した。研究分野は主として神経系統病で、脚気の研究に熱心だった。桐生を訪れたのは、東大医学部の教授時代、ベルリン留学の前年である。

東京大学には現在、歴代研究者の肖像画・肖像彫刻が140ほどある。島蘭は36年

昭和三年十月二十一日  
島蘭順次郎

## 脚気治療の道を開く

しかし脚気の原因が「オリザニン」不足だという鈴木梅太郎の発見は当初、日本の医学界にすぐに受け入れられたわけではない。その当時のことについて、鈴木は31年発行の『科学知識』の「ビタミン研究の回顧」でふれ、こう書いている。

「大正七、八年頃、ビタミン研究が歐米に於て盛んになり、その反響が再び日本に傳はるに及

還曆祝にブロンズ像が制作された。医学図書館の島蘭順次郎記念財団文庫の脇に置かれているという。(青)

# Shall we dance?



月次会報告(7月)

## 社交ダンスのおもしろさ

Shall we dance?の呼びかけのもと、七月の月次会は「ボールルームダンス(社交ダンス)のおもしろさについて」。二階大広間に社員と同伴者など六十人以上が集まり、盛況となった。

講師はヒロミダンススクール主宰の大竹裕美さんで、この日は長年の友人である望月洋一さんが特別参加した。大竹さんは元競技選手で、全日本選手権のファイナリスト、三笠宮杯ラテンチャンピオンという輝かしい経歴を持つが、その大竹さんが大先輩と尊敬するのが望月さんで、全日本10ダンス十年連続優勝、ブラックプール全英シニア選手権で日本人初の世界チャンピオンになったというダンス界の重鎮。

桐生倶楽部の社交ダンスは、ことし理事会の承認を得て発足し、ただいま練習中。気品ある活動として、また健康のため、長く取り組んでいきたいという思いで、今回、この催しが企画された。

はじめに、大竹さんと望月さんがルンバとチャチャチャを踊り、このあとそれぞれに社交ダンスの魅力を語り、背筋ののびし方、歩き方などをまじえて参加者に実技を指導。最後にワルツとタンゴを模範演技し、洋風の大広間いっぱい、華麗な雰囲気をつりまいていた。

(七月二十二日 二階大広間)

講師に大竹裕美さん

重鎮望月さんも特別参加

# 快静「湯の丸」 紅葉館の情緒

## 6月の歩く会



6月の山行は、なかなか難しい…。

何と云っても梅雨時だから、天気予報に一喜一憂である。この日も、そうであった。天気予報は「曇り」…。

下山するまで雨が降らなければ、有難い…と願っていた。しかし、やっぱり「やま」は行ってみなければ、分らない…！登山口の地藏峠に着いた時には、「ピーカン」の予感がしてきた。

こうなると、参加した皆さんも俄然、元気が出てくる。私見ですが、登った山の印象は、天候・眺望・体調の三要素で決まる…と思っています。皆さんも「ピーカン」の予感から、眺望を楽しみに声も弾み、いざ9時に地藏峠を出発した。

まずは烏帽子岳を目指すが、烏帽子岳と湯の丸山との鞍部に至るまでのこの道はなだらかで、本庄市から来たグループとお喋りをしながら、樹林の中を快適に歩く。鞍部に到着…右に湯の丸山、左に烏帽子岳。さあ、いよいよ烏帽子岳への登りに入る。皆さん、好調…空は、ますます碧さを増してくる。

鞍部から登ること、およそ50分…烏帽子岳頂上に到着！なかなかの賑わいである。ここで、軽い食事を摂り、また鞍部に戻る。

鞍部までの道を下りながら、正面には湯の丸山に続く急登の道が見える。しかし、皆さんは、下山道をshort-cutしたりして、ますます元気…。鞍部で小休止の後、今度は湯の丸山への登りにかかる。

一旦下ったの登り返しは気が減入るものだが、この急登は距離も短いので、自分のペースでゆっくりと高度を稼いでいるうちに、案外とアッサリ、頂上に着いてしまった。

私より早く到着した人たちは、既に、持参したご馳走を互いにまわしながら？を飲み、食事を楽

しんでいた。

空は、まさにピーカン…！眺望は素晴らしく、青い空には、不思議な「逆さ虹」が見える。この虹はやはり珍しい現象のようで、後日、「桐生タイムス」紙にも報道されていた。

湯の丸山頂上で眺望と食事を楽しんだ後、頂上の南峰から北峰へと向かい、角間峠への下りに入った。頂上にあれほどいた登山客も、さすがにこのコースは採らないらしく、急に静かになった道を私たち14名が独占状態で、お喋りだけは途切れず、角間峠まで続く。

角間峠から鹿沢温泉までは、間もなくである。

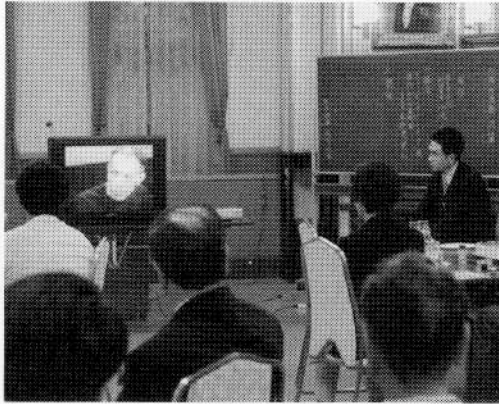
今や鹿沢温泉は「紅葉館」一軒のみで、知る人ぞ知る…と云った風情が旅館に漂っている。この旅館の女将は、この山行例会をご案内した時にお知らせしましたが、桐生市広沢町の出身だそうです。残念なことに、私たちが行った6月12日には不在で、お会いできませんでした。

口の悪い某世話人は、「狩野が申し込んだから、いないのだ…」と言っていました。その通りかも知れません。

でも、帳場にいた娘さんは美人でしたので、女将もさぞかし…でしょう。ここのお風呂は若干ぬるいのですが、環境保全のため石鹸が置いてなく、お湯とタオルで汗を流す…と云う地球に優しい姿勢が気持ち良く感じられました。

帰路は浅間酒造のドライブ・インに寄り、例によって、買うべき人は買うべきものを買って、ますますバスの中は賑やかになり、疲れを知らない子供のようになって、無事、19:00桐生倶楽部に戻りました。

今回参加されなかった社員の皆さん、今度こそ、一緒に歩きましょう…！  
(狩野 記)



### 月次会報告(6月)

# オノサトの 魅力を語る

大川美術館・春原史寛さん

6月には、86年に亡くなるまで、桐生で創作活動を続けた抽象画家、オノサト・トシノブさんの話。大川美術館の学芸員、春原史寛が講演した。

オノサトさんは1912年、長野県飯田市に生まれ、10歳のときに一家で桐生へ移住した。十代で画家を志し、二科会展などに出品。シベリア抑留を経て、戦後49年から56年まで中学校の美術講師をつとめ、のちに画業に専念。64年ベネチアビエンナーレ、65年ニューヨーク近代美術館展に出品し、国際的に高い評価を得た。

オノサト作品を数多く収蔵し、常設展示もしている大川美術館が6月、12年ぶりに本格的な企画展「オノサト・トシノブ展 織都・桐生に生きた抽象画家」を開催した。初期の作品からベタ丸の分割と、変化に沿って35点を展示。市民ホールの緞帳原画なども含まれていて、この企画展にあわせ、オノサトの世界にふれようと、春原さんを月次会に招いたものだ。

軽食とワインが用意された会場で、生前のインタビュービデオや作品映像を紹介しながら、春原さんは、オノサト作品の生命力、ヒューマニズムなどについて、多角的に、その魅力を語った。

(6月10日、2階大広間)

### 桐生倶楽部はぐるま句会

五月

裏戸より牡丹の客となりにけり 小池

里山にときに濃き日矢夏来る 大槻

銀鱈のきらめく川面夏来る 有阪

夕暮の闇を濃くして白牡丹 久保田

牡丹の一花崩れし無縁塔 尾澤

追伸の祭に來いと母の文字 遠藤

六月

暮れなづむ山門までの著莪の坂 尾澤

北窓を開けて呼び込む著莪の風 久保田

上州と越の岐れ路青嵐 小池

釣舟の湖に点在青嵐 遠藤

蜘蛛の囿に連珠の光る雨上がり 有阪

捕縛術手本見せんと蜘蛛出でし 大槻

### = 倶楽部だより =

- 【6月】・月次会「オノサト・トシノブ」展 (10日)
- ・歩く会例会「湯の丸山」 (12日)
- ・理事会 (13日)
- ・歩く会世話人会 (14日)
- ・はぐるま句会 (29日)

- 【7月】・理事会 (11日)
- ・美術展鑑賞会(美術部) (17日)
- ・月次会「ボールルームダンス」 (22日)
- ・歩く会例会「日本ピラタス」 (24日)
- ・歩く会世話人会 (28日)
- ・はぐるま句会 (28日)

### <退社社員>

金谷好之助

長谷川正・日野 茂・葉山 茂・藤江敏雄

社団法人 桐生倶楽部会報 第148号  
 2005年(平成17年) 8月発行  
 発行人 塚越平人  
 編集責任者 木村隆夫  
 印刷 ツポノ印刷株式会社



# 桐生倶楽部会報

〒376-0035 桐生市仲町2-9-36 社団法人 桐生倶楽部 TEL 45-2755

## 折々の出会い

芳名録から

昭和60年4月3日来桐

大山康晴

（1923～1992）

将棋第15世名人

将棋名人の大山康晴は岡山県倉敷市生まれである。1935年木見金治郎八段に入門するが、同門に生涯のライバル升田幸三がいた。升田は大山より5つ年上で当時二段。二人は升田の角落ちで対局するが、結果は大山の3連敗だったという。

国内の部隊で終戦を迎え、46年に棋界に復帰した大山は、翌年、順位戦A級に昇級し、七段に

## 生涯現役

昇進した。48年、兄弟子・升田をやぶって塚田正夫名人への挑戦権を得る。そして4年後、第14世名人の木村義雄をやぶり、名人に就いた。

将棋の「名人」が実力本位になったのは37年である。そのリーグ戦を制して以後、タイトルを守り続け、名人戦の権威を高めたのが木村だ。そして大山はこのあと5年間名人位を守り、木村に続き、第15世名人の資格を得たのである。当時のタイトル戦は、二番負けた側が次の対局から、相手の香車落ちで対戦しなければならないというルールがあった。53年、54年、57年と、三たび大山に挑戦してきたのが升田。57年の升田は3勝2敗で優勢に立ち、大山は香車落ち対局の

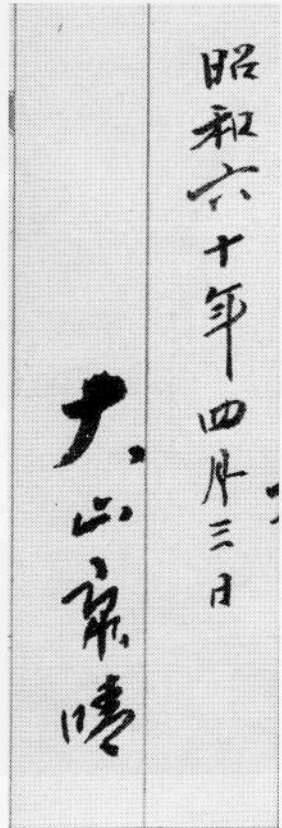
屈辱を味わう。升田は少年時代に「自分はいつか名人に香を引いて勝つような強い将棋指しになりたい」と語っていたといい、この第六局を升田が香落ちで勝ち、大山から名人位を奪った。

しかし、大山が後世、不世出の名人と言われるゆえんは、むしろこの敗戦以降に発揮した強さと精神力である。升田とのすさまじい戦いは格タイトル戦で繰り広げられ、59年に名人位を奪還すると、その後大山は升田の挑戦を4度退け、そして王位戦、棋聖戦にも勝って五冠に。

その大山が、中原誠にやぶれて名人位を明け渡し、王将位も失って無冠になったのは72年。しかし大山は2年後、51歳になってから中原から十段位を奪取、更には棋聖を奪還して再び二冠になる。また79年に再び無冠になると、翌年には加藤一二三から王将位を奪還。これを60歳で失うものの、63歳でふたたび名人戦の挑戦権を得た。桐生にやって来た翌年のことである。

さらに大山は92年、順位戦で名人への挑戦者決定戦に進出。その3ヶ月後、69歳で逝った。

タイトル獲得は名人18期、王将20期、十段（九段戦を含む。現竜王戦）14期、王位12期、棋聖16期の合計80期。タイトル戦の総登場数は112回。死ぬまでA級の現役棋士だった。



# 初秋の善光寺参りと小布施のま



たので、またそのうえ、酒もよし食事もよし楽しい食事となった。食後は自由行動、文化の拠点小布施、北斎会館、おぶせミュージアム、中島千波館、お土産店等、散策、買い物。小雨が、かえって落ち着いて見学できすばらしい散策となった。全員定刻集合。小布施を後に、北野美術館へ向かう。順調な時間の流れでしたので小布施出発時間がすでに一時間繰り上がり、十三時三十分となりました。北野美術館は北信濃の山麓に囲まれた善光寺平、長野市の静かな郊外にあり、私立美術館として県内初めて昭和四十三年に開館、日本画、洋画、彫刻、書跡、工芸品等展示、見所沢山、また庭園は枯れ山水と海景を模した日本庭園。印象に残った木村荘八「牛肉店帳場」のような当時としてはハイカラな場所は桐生にもあったような？、懐かしく思う。一時間ほど見学して帰路につく。十五時三十分発。

この散策帰路、長野県の教育、文化に対する考え方、一般庶民を含め、市民町民のものとなっていると言うのか、リーダーのもとみんなで作る町作りなのか、この辺に学ぶべきものが沢山ありそうに思い感じた。

途中、横川SAにて休憩、桐生倶楽部十八時三十分一時間早く到着。今回の月次会世話人代表村田さんを初めとして、皆さんのご協力で楽しい散策ができましたことに感謝申し上げますと共に、最後となりましたが、理事長ご夫妻にもご参加頂き、また過分なるご寄付を頂き有り難うございました。

(江原 毅記)

## ちめぐり、そして美術館

月次会報告(9月)



平成十七年九月十一日、桐生倶楽部集合、遅刻者もなく予定時間、六時出発。空模様も高曇りの感じで、雨だけは降らぬよう祈りながらのスタート、衆議院選挙投票日となつてしまつたせいか、参加者が少々少ない感もあつたようだ。北関東、関越道、上信越道、と投票日で道は交通量が少なく感じる。順調に横川SAで休息、八風山トンネルを抜け信州側に出ると、以外に雲は低く今にも降り出しそうな空模様となつてしまつた。一路長野市善光寺へ向かう。近づくにつれ、とうとう降り出して来た。表参道大門西着八時二十分頃予定より三十分ほど早くついた。全員で善光寺お参り、その後自由行動。お戒壇巡りに向かう方、信濃美術館、参道のミニ博物館に向かう方、資料がいろいろ配られていたので何人かのグループで個々の見学となつた。ミニ博物館の多くが日曜休日となつていたのは少々残念であつた。参道を見学しながら、お店のたたずまいに驚きました。参道の雰囲気を感じさぬように昔のままか、白壁土蔵造りの感じか山門から離れて行くとマンションのような建物も在りましたが、二階までは白壁に日本瓦などを利用して、それぞれの店が参道の雰囲気を作っています。参道散策の内に雨も大変強くなり、土産店等に立ち寄り雨宿り。集合場所が集まりでしたが、バス停車場所故早い時間にくるはずもない。午前十一時一、二分前に時間厳守でバス到着、全員集合していたので、速スタート、一路小布施へ。

時間も昼少し前、直接予約した酒造の店、蔵部へ。入り口、店内、調理場、接客、雰囲気、とてもすばらしい。全員が予約してあつ

# 標高2400米・縞枯山へ

7月24日、曇天の中、雨だけは降らないことを祈って定刻の5:30倶楽部出発。参加者19名。道路は予想外に空いていて8:40ピラタス横岳ロープウェイ山麓駅へ到着しました。

100人乗りのゴンドラで標高差500米を一気に登ると山頂駅は標高2240米、気温13度と心なしか肌寒く感じます。30分程で坪庭を一巡り。坪庭は約1万年前に始まった八ヶ岳の噴火で出来た溶岩台地です。火山終息後8千年の歳月をかけて溶岩の間にシラビソ・ハイマツ・ガンコウラン・石楠花などの植物が自生し、まるで盆栽を並べたような不思議な景観です。青い三角屋根の縞枯山荘を経て、シラビソの樹林帯の中、緩やかな登りを1時間ほどで縞枯山(2387米)山頂に到着。山の名の由来は西斜面の縞枯現象からこう呼ばれています。頂上はスペースが狭く、記念写真を撮るとすぐに出発。茶白山(2383米)を経て、11:40中木場(2232米)のピークにて昼食。

360度の展望の開けた山頂ですが、低い雲が垂れ込めて眺望は無し。そう言えばロープウェイ駅でガイドが、「この北八ヶ岳の辺りは1年中霧が立ち込めることが多く、その為に2千4百米の高さなのに、他の山に比べ豊かな樹林帯が育っている」旨の話をしていました。道端にイワオトギリ・ゴゼンタチバナ・オサバ草・コケモモなどの花を楽しみながら下山、全員無事にハイキングを終りました。(村田記)



## 俳句をご一緒に

はぐるま句会員を新規募集しています。はじめての方でもすぐ上達します。例会は毎月一回午後七時クラブで。お申込みは小池又は大槻へ。

(久保田)

七月

息凝らし金魚掬ひにもう一度	子等帰り風鈴の家となりにつけり	緑日の金魚一匹生き残り	特急の網棚白ふ青りんご	酸っぱさも思ひ出のうち青りんご	湖見ゆる空遙かなり青りんご
有阪	遠藤	尾澤	久保田	大槻	小池

桐生倶楽部はぐるま句会

八月

青りんご庭に四五本虚子の庵	矢継ぎ早大地突き刺す稲光	白粉花の咲く道いつも話の輪	何と言つても稲妻は上州路	稲妻の真横に走り山の峯	お白粉を咲かせ老妓の薄化粧
遠藤	有阪	小池	大槻	尾澤	久保田

### = 倶楽部だより =

- [8月]** ・理事会 (8日)
- ・はぐるま句会 (29日)
- [9月]** ・歩く会月次例会
- 「善光寺・小布施」 (11日)
- ・理事会 (12日)
- ・歩く会世話人会 (15日)
- ・はぐるま句会 (26日)

#### <退社社員>

寺内整染(株)・三丸 修・笠木 茂(逝去)  
篠原 章・粟田詔三

社団法人 桐生倶楽部会報 第149号 2005年(平成17年) 10月発行 発行人 塚越平人 編集責任者 木村隆夫 印刷 ツボノ印刷株式会社
--

# 桐生倶楽部会報

〒376-0035 桐生市仲町2-9-36 社団法人 桐生倶楽部 TEL 45-2755

## 折々の出会い

芳名録から

1928年12月2日来桐

蓮 はす

沼 ぬま

門 もん

三 ぞう

(1882) (1980)

「愛なき人生は暗黒なり、汗なき社会は墜落なり」と刻まれた愛汗の碑が、福島県喜多方市の蔵の里に建立されている。日本の社会教育団体の源流に位置づけられる修養団の創設者で、同市の名誉市民、蓮沼門三の言葉。1980年に市民の浄財で建立され、生前の門三が入魂式を行った。

門三は同県の山都町で生まれ、喜多方市で育った。資料によれば、東京府師範学校に入学して生活中、自然と人生の摂理を感じ、奇宿舍の美化を思い立って廊下の雑巾がけなどを始め、その実行実働に心を打たれた学友たちと学内に修養団をつくり、機関誌「向上」を創刊した。明治、大正、昭和と、青少年の健全育成を中心とした社会事業の道一筋を歩んできた教育家だ。

修養団は現在、文部科学省所管の社会教育団体で、全国に支部を持ち、ボランティア活動や青少年の育成事業、恵まれない子どもへの支援などを行っている。ことしは、その修養団が創立100周年を迎えて、11月13日、東京の明治神宮会館で記念大会が開催された。当日は天皇、皇后両陛下

汗なき社会は墜落なり

## 修養団の創設者

下が出席され、天皇陛下は「修養団の様々な事業を始め、我が国における社会教育活動が、人々の幸せと世界の平和を目指して、更に力強く展開されていくことを願い、大会に寄せる言葉といたします」とあいさつしたと、新聞が伝えている。

蔵の里には門三の功績を伝える資料展示室がある。100年を機に展示の充実がはかられた。

昭和三年十二月二日  
蓮沼門三

## 月次会報告 (11月)

## 写真講座

11月の月次会は、フォトマガザンの蓼沼敏夫さんを講師に招いての第2回「写真講座」。美しい写真の撮り方と題し、構図を学んだ。以下はその講義資料から。(11月16日、大広間、参加者35人)

## 構図の決め方

## 1 水平線構図

- 画面に広がりを出す。
- 水平線で画面を分けるときは、3対1や7対3の比率で分けると安定して、主役と脇役の役割が明確になる。
- 下のほうに水平線を持ってくると、広がりとおおらかさが出る。又、静けさもでます。
- 迫力を出すなら、水平線はなるべく上に持ってくる。

## 2 垂直線構図

- 上下への伸張感を出す、高さを表現するにはよい構図です。
- 一本の垂直線で画面を引き締めて、構成すると強い印象が得られる。
- 垂直線は真ん中におかず、左右どちらかへ少しずらして画面を整える。
- 横位置よりも縦位置のほうがより効果が表れ、強い緊張感を引き出せる。
- 複数の垂直線でリズム感をだす。
- 垂直線の長さや太さで遠近感を出す。

## 3 斜線構図

- 生き生きとした動感を出す。
- 複数の斜線で画面に動きを出す。
- 斜線の組み合わせで広がりを出す。
- 望遠レンズの圧縮効果で、遠近感を出す。

## 4 対角線構図

- 画面を2等分割して、安定感を出す。
- 対角線上に主役を点在させて、リズム感を出す。
- 幅のある対角線を利用して迫力を出す。
- 対角線構図が生む緊張感をボケを使って片方を和らげる。

## 5 放射線構図

- 躍動感を表現する。

- 放射線状に広がる雲や大地の形状で、伸びやかさや進出感を出す。

- 光の筋をとらえて、感動的な写真にする。

- 被写体の形とレンズの特性を生かす。

## 6 曲線構図

- 優美さを引き出す。
- 前景に曲線を配し、より印象づける。
- 曲線を描く地形をとらえて奥行き感を出す。
- 曲線を見つけて、優しさを出す。

## 7 三角形構図

- 安定感がえられる。
- 三角形の形状を生かして主役を引き立たせる。
- 主役を利用して三角形構図を作る。
- 三角形を探して画面をまとめる。複数の三角形でリズムカルにまとめる。

## 8 逆三角形構図

- 開放感を生み出すが、不安定感も表わす。
- 樹木や岩など、自然の物そのものが持つ逆三角形を見つける。
- 風景の中から逆三角形を組み合わせる。
- 三角形と逆三角形を組み合わせる。

## 9 日の丸構図

- 被写体の存在感を高める。
- 周囲をボカして、主役を引き立たせる。
- 画面に大きく被写体を配置する。

## 10 対比・対称構図

- 脇役が主役を引き立たせる。
- 対になった被写体を利用する。
- 光や色の違いや、風景の中に対比を探す。
- 水面への映り込みを利用する対称構図。
- 被写体を左右もしくは天地対称でとらえる。

## 11 パターン構図

- 繰り返してリズム感を出す。
- パターンを整えてすっきり感を出す。
- 点景を繰り返して、リズムをつける。
- 風景の中からパターン構図を探す。

## 12 トンネル構図

- 視線を集中させる。

## 13 シルエット構図

- 手前をシルエットにして、より印象的にまとめる。
- 光の輝きに注目して作品としてまとめる。

## 14 三分割法

- 画面を縦横三分分にします。その交わったところに主要被写体を置きます。

## 錦秋の妙義山を歩く

### 11月の歩く会



平成17年11月13日(日)は、桐生倶楽部・歩く会の月例山行日でした。「この時期の妙義山の紅葉を楽しもう…」と年次計画に盛り込まれておりましたが、まさに狙い通りに、色とりどりの、鮮やかな紅葉が私たちを迎えてくれました。

さてさて、本日の参加者は10名…それも、この月例山行を楽しみにしてしてくれる常連さんばかりで、お互いの脚力と実力が分っていて、幹事も安心して山行が楽しめるのは、ありがたいことです。

全員、定刻までに集合し、バスに乗り込んで、午前7時、桐生倶楽部を出発…。北関道・伊勢崎ICから上信道をめざし、途中、甘楽PAで休憩をとり、松井田・妙義ICから中之岳神社に向かい、駐車場に着いたのは、予定通りの午前8時30分でした。

まずは、本日の山行の無事を中之岳神社の階段下から祈願して、いよいよ出発。早速、「カニの小手調べ」と言えそうな鎖場が出てきましたが、「小手調べ」だから全員、難なく通過…これから、「カニのヨコバイ」やら「カニのタテバイ」と呼ばれる鎖場が続くのかあ～と思っていたら、早くも「カニのヨコバイ」のところで大渋滞…。どうも、鎖場が怖くなってしまった家族連れが、多勢の上り客がいるのに、「カニのヨコバイ」のところで強引に下ろう…としているのが原因らしい。

この「ヨコバイ」は、私が小学校1年生の時に、父の職場の同僚たち家族連れとのピクニックで父と一緒に来て、鎖場が怖くて、私が「ワア、ワア」と泣き仕方なく、父がみんなから手拭を借りておんぶ紐を作り、私を背負って、この鎖場を通ったような。

このピクニックには、私と同級生の女の子も参加していて、その女の子は、ちゃんと一人で「ヨコバイ」を歩いたらしく、その夜の夕食の時、父は、「我が家の息子は、男のくせにして不甲斐ない」と嘆いたそうです。

そんな辛い記憶のある鎖場も、「何故、こんなところで泣いたのだろう…」と、今は不思議な感がある。「カニのヨコバイ」も「カニのタテバイ」も、「釣瓶落とし」の鎖場も、皆さん、身体をスマートにして、難なく通過…。

その後は、お喋りを楽しみながら、また見事な紅葉に歓声を上げながら、ゆったりと写真を撮ったりしているうちに、順調に、第四石門に到着…。「関東ふれあいの道」にもなっている妙義中間道の途中で、長～い昼食タイムを取った後、本日のゴールである「妙義神社」を目指します。ここは緩やかで、歩き易い下り坂が延々と続き、「飽きてきたなあ～！」と思っていたらポンッと「妙義神社」の境内に出た。待つこと、暫し…。全員が無事揃ったところで、日光・東照宮を思わせる「妙義神社」をバックに完登記念撮影をして、さあ～後は、これも楽しみな、お風呂ですよ、お風呂…ところが、当初予定していた「もみじの湯」という温泉施設が、紅葉見物客で混雑していたため、急遽、磯辺温泉に向かうことにした。

磯辺温泉「かんぼの宿」は、空いていましたねえ…。

新緑もそうですが、こうした刻の流れを感じながら、自然の営みに心と身体を溶け込ませる…って、頑なになっている自分が解れていくようで、やっぱりいつまでも山の中で戯れていたと思います。それにしても、金子宗吉ご夫妻のお互いへの思いやりと健脚ぶりには、敬服しました。お疲れ様でした。(狩野喜範 記)



桐生倶楽部はぐるま旬会

九月

竹とんぼ作りし日あり鯛雲

久保田

峡の村包む晩鐘いわし雲

尾澤

往く道の燃ゆる心や鶯鶏頭

有阪

捨てかねし団扇に旅の想ひ出も

小池

戦乱の地の絶えずとや鯛雲

大槻

十月

ほうろくに銀杏はぜるおもてなし

小池

銀杏を沈めさらさら神の水

遠藤

丹精の菊のうしろの菊師かな

大槻

山峡の日暮れは早し秋の声

久保田

銀杏を落とす風待つ老婆かな

尾澤

人形に生氣差し込む菊師かな

有阪

= 倶楽部だより =

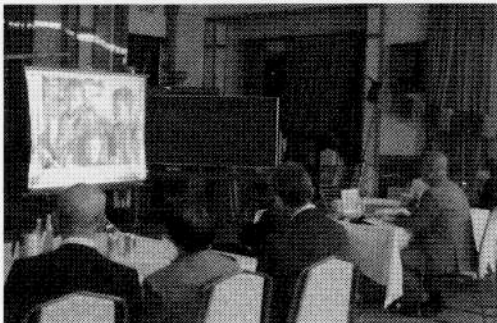
- 【10月】・理事会 (11日)
- ・歩く会10月例会 中止 (16日)
- ・歩く会世話人会 (20日)
- ・写真部会 (25日)
- ・はぐるま旬会 (28日)
- ・10月月次会  
「坪井住職によるブータン紀行」 (31日)

- 【11月】・行事委員会 (7日)
- ・文化活動委員会 (11日)
- ・歩く会11月例会「妙義山」 (13日)
- ・理事会 (14日)
- ・月次会「楽しく美しい写真の撮り方」(16日)
- ・歩く会世話人会 (17日)
- ・役員特別懇談会 (28日)
- ・はぐるま旬会 (29日)

月次会報告 (10月)

秘境ブータンの旅  
坪井さんが土産話

スライド、カレーも楽しむ



10月の月次会は、坪井良広さんのブータン紀行。参加者は、豊富なスライド映像をじっくり見ながら、世界の秘境の話を楽しんだ。

坪井さんが同地を訪れたのはこの秋。日本の九州よりもやや大きい面積で、君主制をしく仏教国だが、近年、政治的な安定を背景にして開放政策に力を入れているものの、まだまだ自由に観光を楽しめるという環境にはない。しかし、だからこそ、素朴な自然、暮らしなど、ひと昔前の日本の田舎をほうふつとさせる風景がここかしこに息づいていて、心うたれたという。

行程にあわせてとりためた写真には、豊かな自然、秘境にふさわしい仏教建造物、民俗、そして輝くような子供たちの笑顔が。またこの日は、坪井さんがお手製のカレーを用意して参加者にふるまい、旅の気分に一興を添えた。

(10月31日、2階大広間、参加者25人)

社団法人 桐生倶楽部会報 第150号  
 2005年(平成17年) 12月発行  
 発行人 塚越平人  
 編集責任者 木村隆夫  
 印刷 ツボノ印刷株式会社



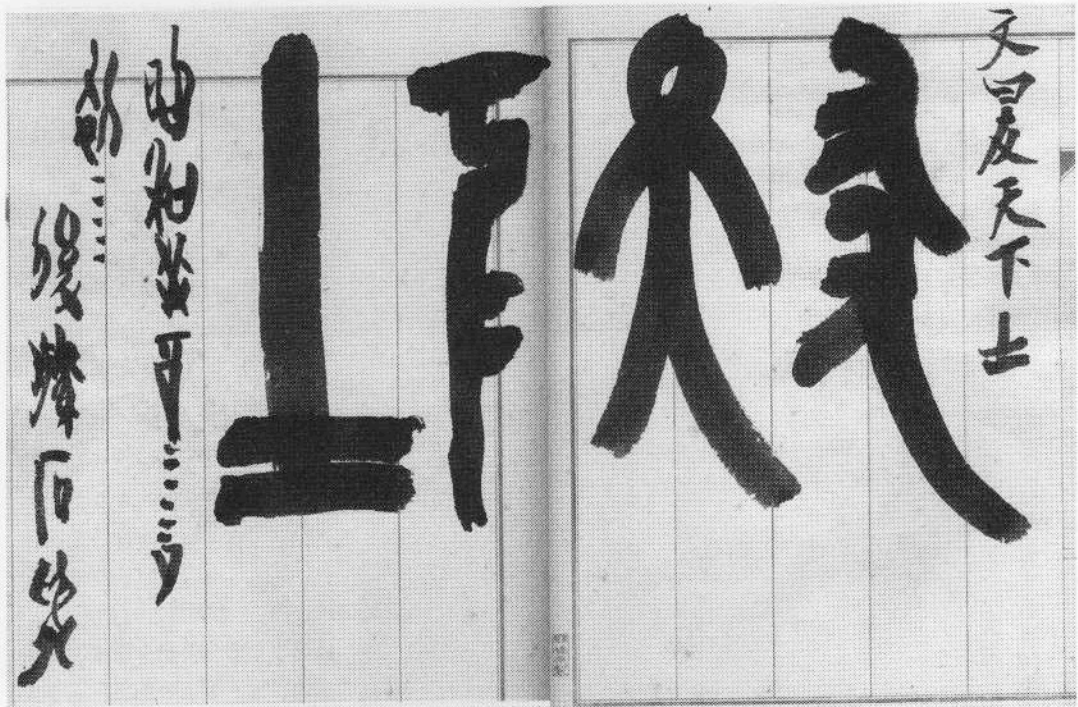


# 桐生倶楽部会報

〒376-0035 桐生市仲町2-9-36 社団法人 桐生倶楽部 TEL 45-2755

## 折々の出会い

芳名録から



## 訪問者の遊び心

桐生倶楽部の芳名録をみると、署名にひとことを添えていく来訪者がめずらしくない。だが、添えられたひとことが、大胆な筆づかいで、2ページにわたっているのはこの人だけだ。人物の特定はできていない。書き出しの「文曰友天下士」は「文ニ曰ク天下ノ士ヲ友トス」と理解すればよいのだろうか。そして、篆書体で「友天下士」と書いてある。

続いて「昭和癸酉一一一一一月」となり、「始一一一一」と読める。これは来館日を示しているらしく、昭和癸酉は昭和八年一を足して六月、さらに始めの五ということだ。「昭和八年六月五日」に訪れたと考えてよさそうだ。

署名は「後藤石」に続く文字がよくわからないけれど、漢詩の関係者ではないか、と思われる。

# 後世に伝えたい

## 新年互礼会、塚越理事長が抱負

2006年の新年互礼会が4日、桐生倶楽部2階大広間で開かれた。

あいさつに立った塚越平人理事長は、桐生の先輩たちが群馬大学工学部の前身である高等染織学校や町立中学校の創設に際して示したさまざまな努力は、後世に伝えていかねばならないという強い思いから生まれ出たものであり、桐生倶楽部に脈々と受け継がれてきたその志で、こんごも取り組んでいきたいと語った。

大勢の来賓のほか、社員53人が参加。桐生観友会の「鉢の木」が、祝宴に花を添えた。また、昨年文部科学大臣表彰を授与された設楽實さんに銀杯が贈られた。



あいさつをする塚越理事長

新しい年の  
門出を祝う

桐生観友会が謡



## 歩く会と美術部会



## おいしく 楽しく 三浦半島

## 白秋の愛した城ヶ島・三崎漁港・葉山美術館

「城ヶ島」といって誰もが連想するのは、北原白秋の詩「雨は降る降る城ヶ島の磯に…」ではないでしょうか？白秋は大正2年春松下俊子と結婚。翌年7月に離婚するまでの1年と数ヶ月をこの三浦三崎で暮らしました。「城ヶ島の雨」はこの頃の作品です。12月の歩く会は、41名の参加を得て、美術部と協賛で城ヶ島・三崎漁港・葉山美術館を日帰り旅行しました。

12月11日(日)未だ夜の明けない午前5:30桐生倶楽部を出発。車中で仮眠の後、美術部の保倉さん・渡邊さんより、この日の訪問先・葉山美術館で開かれている「西雅秋(1946～)彫刻展」について詳細なレクチャーを頂き、西という作家が極めて精神性の高い世界的な彫刻家であることを知りました。途中道路状況にも恵まれて9時城ヶ島到着。早速「白秋歌碑」前で記念撮影の後、島の周囲の海辺を2時間半かけてのハイキング。曇り空ではありましたが、磯に寄せて白く砕ける波や、潮風の香り、人の傍まで寄って来る海鳥など山国・桐生の私達にとってはもの珍しい風景の中での散策でした。島の南側、太平洋の荒波を受ける高さ約30m、幅2kmの断崖では千羽を超えるウミウの群れを観ることができました。ウミウは夏季北日本などの冷涼な地域で繁殖し、冬季には温暖な地方へ南下して冬を過ごします。城ヶ島に

は毎年10月末頃から飛来し、翌春3月には北方へ旅立ちます。

島巡りの後は三崎漁港へ移動してのフリータイム昼食。三崎漁港は、南に面した城ヶ島が自然の防波堤の役目を果たす「天然の良港」で、古く平安時代から利用されていたとのこと。足利時代・元亀元年(1570)、真鶴の潜り海士30人が北条氏規の命で京都御用「のしあわび」を造る為に三崎へ来たとの記録が残っており、江戸時代には江戸湾防備の重要な拠点となると共に、江戸の台所を賄う漁港としても栄えました。今日では日本でも有数なマグロ漁港基地として発展し、街のあちこちに「マグロ料理」の有名店が立ち並び、休日には観光客で賑わいます。

夫々でマグロ料理を堪能し、お土産を買ったりした後、葉山美術館へ移動。「神奈川県立美術館・葉山館」は鶴岡八幡宮境内に本館を置く神奈川県立近代美術館が北鎌倉別館に次いで平成15年秋に開館したばかりの新しい美術館。天皇家葉山御用邸に隣接する葉山一色海岸の浜辺に面しています。事前にレクチャーを受けた「西雅秋・彫刻展」を観た後、午後4時葉山を出発。帰路、さほどの道路渋滞も無く7:30に桐生倶楽部帰着。美味しく楽しい三浦半島の旅行でした。

(村田記)

# 新春は吾妻山 歩く会 1 月例会

歩く会 1 月例会は 8 日、好天に恵まれて、恒例の吾妻山登山を行った。参加者は 17 人。

午前 9 時に吾妻公園駐車場に集合した一行は新春の初顔合わせをすませ、すぐに登りはじめて約 1 時間、山頂に着いた。

このあと、村松沢方面へ下山し、昼食を取りながら歓談し、午後 1 時ごろ、解散した。



## 笑顔がはじけとぶ 恒例クリスマス祭

桐生倶楽部恒例のクリスマス祭が 12 月 3 日に催され、社員とその家族 80 人が参加して、楽しいひとときを過ごし、互いに親ほくを深めた。

このクリスマス祭は伝統ある行事として、毎年大勢の参加者を集めている。色とりどりの飾り付けですっかりパーティー会場に変身した 2 階大広間には、たくさんのごちそうが用意され、談笑の輪は、テーブルを越えてはずんだ。

やがて、岸芳正さんふんするサンタクロースが登場。プレゼントがわたされるたび、子どもたちの笑顔がはじけとんだ。



### 桐生倶楽部はぐるま句会

十一月

彩失せぬまま散り敷き紅葉径

尾 澤

冬ぬくし鹿せんべいを買ひし妻

久保田

亡き友を数へつつ彫る賀状かな

小 池

竿納め川瀬の秋を惜しみけり

有 阪

冬ぬくし久瀬の友若々し

大 槻

木漏れ日の彫刻の森秋惜む

遠 藤

十二月

枯山の木の隠れに町あかり

尾 澤

枯山の稜線透けて丸かりし

遠 藤

杣道は足音ばかり冬の山

久保田

枯山に水流細く抱かるる

大 槻

文化財ライトアップに年暮るる

有 阪

枯葉もて大地に文字を書きし風

小 池

### = 倶楽部だより =

- 【12月】 ・クリスマス祭 (3日)
- ・歩く会12月例会 (三浦半島) (11日)
- ・理事会 (12日)
- ・歩く会世話人会 (14日)
- ・はぐるま句会 (21日)
- ・会員増強拡大委員会 (23日)

- 【1月】 ・新年互礼会 (4日)
- ・歩く会1月例会 (吾妻山登山) (8日)
- ・理事会 (10日)
- ・歩く会世話人会 (12日)
- ・監査会 (14日)
- ・はぐるま句会 (28日)
- ・臨時理事会 (31日)
- ・定時社員総会 (31日)

### 〈退社社員〉

中野 隆雄・飯島 道廣・野田友治郎  
田村 寛・津島 宏

社団法人 桐生倶楽部会報 第151号  
2006年(平成18年) 2月発行  
発行人 塚越平人  
編集責任者 木村隆夫  
印刷 ツポノ印刷株式会社



# 桐生倶楽部会報

〒376-0035 桐生市仲町2-9-36 社団法人 桐生倶楽部 TEL 45-2755

## 折々の出会い

芳名録から

1935年11月16日来館

君島清吉

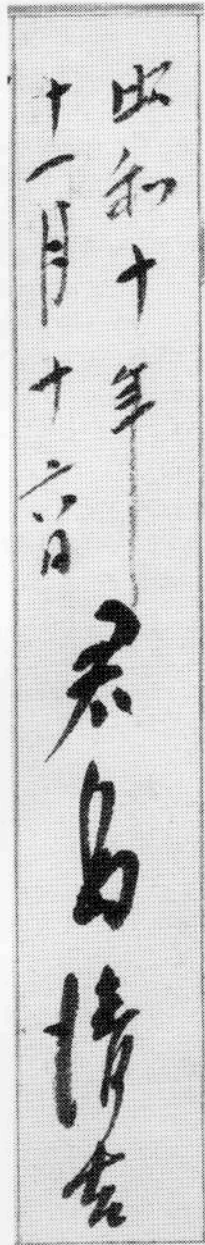
群馬県知事

(1889-1966)

君島清吉は栃木県下都賀郡栃木町、いまの栃木市の生まれである。東京帝国大学の政治学科を卒業して、奈良県工場監督官補をふり出しに、同県保安課長、国勢院書記官をつとめ、また、1917年

団員や学生が中心だったという。

講習期間はさまざまだが、開講式と閉講式は厳粛に行い、入場者心得、場内心得を定めて規律ある生活を行い、特に朝の神前行事、夜の静座は義務付けられていた。記録に残っている一泊講習によれば、開講・心得説明を受けた入場者は昼食ののちにまず講話を2時間、引き続き舞踊・唱歌・詩吟を1時間。その後1時間きざみで作業・入浴・夕食・懇談・映画をこなし、翌日は朝



## 上毛古墳綜覧の誕生

にはジュネーブで開催された国際労働総会に政府代表委員随員として渡欧した。

茨城、賀川、宮崎各県知事を歴任した後、群馬県知事となる。35年は就任の年である。

36年、甘楽郡一ノ宮町の貫前神社隣接地に東国敬神道場を建設したことは有名だ。皇国民育成の観点から神社や寺院、史蹟名勝が社会教育上の文化施設として重視され始めたこの時代。本県では35年に「敬神崇祖精神高揚事業期成会」が設立され、約10万円余の建設諸費を投入した。

この道場は「男女青年又は学生其ノ他修養ニ志ス者」を対象に、「有為活発ナル皇国ノ人材ヲ鍛練スル」ことを目的とした。つまり、年齢にも職業にも性別にも制限はないが、実際には男女青年

5時に起床して清掃・朝食・静座・講話・昼食・閉講と、日程はきっちり推移したようである。

また県内古墳の一斉調査を行い、貴重な文献である「上毛古墳綜覧」が誕生したことは君島の特筆すべき業績としてあげられる。この仕事のために、君島が招へいたのが尾崎喜左雄だ。尾崎は後に群馬師範学校、群馬大学の教授となり、多くの郷土史研究者を育てた。

# 早春の山歩き

## 2月の八王子丘陵

2月の歩く会は故郷の山・八王子丘陵を歩きました。7:30倶楽部へ集合した11人はタクシーに分乗して東武阿左美駅へ。7:50、阿左美駅で4人が合流して、この日の参加者は計15名となりました。

まずは最初の目的地である縄文文化遺跡を見学。阿左美駅構内に入ると右側に休憩所のような2件の建物があります。その中にあるのが縄文時代の住居跡。この2件の住居跡は、昭和29年12月プラットホームの拡張工事が行われた際に発見されたものです。その後、藪塚本町の今井新次の後援により、当時群馬大学学芸学部史学研究室尾崎喜左雄教授の指導のもと、史学研究室員によって調査されました。

これらの住居跡は、今から約3千5百年程前の縄文時代後期に属します。一つは地面を30センチ程度掘り下げて造った竪穴住居で、床面の中央には川原石で円形に囲った炉があります。今一つ

は床面に平らな石を敷いた、いわゆる敷石住居と呼ばれるものです。3千年を超えた人々の営みがこんな身近に見られるのは驚きです。

8:00遺跡をあとにして、笠懸東小脇から冬枯れの道を登って8:20荒神山(標高218米)へ。ここからは茶臼岳の南麓を周りこんで、9:10茶臼山・山頂(293米)到着。標高が低いわりには眺望の良い山頂です。立春を過ぎたとは言え、赤城からの寒風に震えながら暫し休憩。帰途は戦国時代の遺跡を道端に見ながら、初山峠を経て10:00南公園到着。公園内の早咲(1分咲程度?)の梅を愛でた後、

10:30広沢小学校前で解散。参加者の一部は徒歩で倶楽部迄。

お天気にも恵まれ、早春の爽やかなハイキングでした。

(村田記)



# 浩然の気を養う



## 3月の行道山・西溪園

歩く会3月例会は12日、足利の行道山から両崖山をへて梅で有名な西溪園を訪れました。

参加者12名は8時17分の両毛線で足利駅へ、そこからタクシーに分乗して行道山浄因寺の駐車場へ。山門に続く急な石段はスギの大木に囲まれ、苔むした石仏群があり長い歴史を感じさせます。境内に入り本日の無事をお願いして尾根歩きへと出発。小1時間で最高地点の石尊山見晴台(441.7m)に到着。

360度の眺望がひらけていましたが残念なことに春霞がかかっていて大パノラマというわけには

いきませんでした。

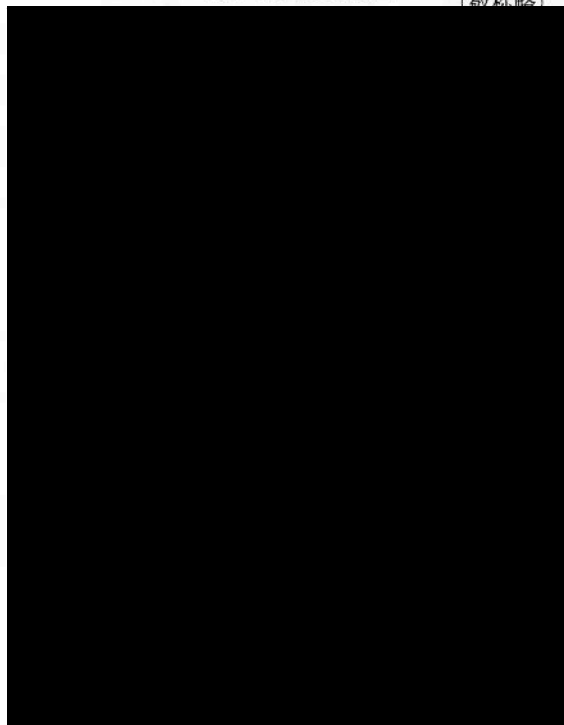
そこから剣ガ峰、大岩毘沙門天、両崖山へと上り下りの連続を歩き、足利城跡の両崖山で昼食の後、尾根からそして梅で有名な西溪園まで歩きました。この冬の寒さの為かまだ2分咲き程度でしたが、木の数が多く満開の時は素晴らしい花見ができそうです。

4時間30分の山行でしたが暖かい日に恵まれ山を満喫し全員無事帰路につきました。

(栗原記)

# ようこそ倶楽部へ

= 新入社員紹介 = (敬称略)

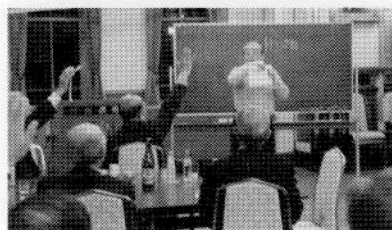


松過ぎの枕明るき見舞かな	一月
裂帛の気合の中の鏡餅	
燈明が照らす神の座鏡餅	
掌にのせて新居の鏡餅	
箱根路の熱きドラマに年明けり	
松過ぎてゲートボールの声弾む	
小池	大槻
久保田	遠藤
尾澤	有阪

## 桐生倶楽部はぐるま句会

臘梅の香の咲きのぼる朝かな	二月
毛氈に地酒ころがる梅見かな	
さざ波も渦も光りて春浅し	
薄氷は風の吹くまま皴となり	
鳥影の濃き里山の春浅く	
早春のうすうすけふる山河かな	
小池	遠藤
久保田	尾澤
大槻	有阪

## 目を大切に 月次会報告(2月)



北川さん講演

2月の月次会は、北川眼科医院の北川洋院長を講師に招き、目の構造、健康について学んだ。

北川さんはまず、10円玉を取り出して「これが目の大きさです」と分かりやすく解説し、さらに眼球模型を使い、遠くの視力、近くの視力、老眼はどのようにして起きるのかを説明した。

ものがぼやけて見えると、頭はその像をはっきりさせようとするから網様体はつねに緊張状態を強いられて、肩こり、首が張る、偏頭痛、気持ちが悪くなるなどの症状がでる。そんなひとつひとつの解説が、参加者にはいちいち思い当たるようで、さかんにうなづく姿がみられた。

(3月9日、2階大広間、参加者20人)

## = 倶楽部だより =

- [2月]**
  - ・全員増強拡大委員会 (3日)
  - ・歩く会2月例会  
「八王子丘陵～茶臼岳」 (12日)
  - ・理事会 (13日)
  - ・歩く会世話人会 (16日)
  - ・はぐるま句会 (25日)
- [3月]**
  - ・2月月次会「目を大切に！」 (9日)
  - ・歩く会3月例会「行道山～両崖山」 (12日)
  - ・理事会 (13日)
  - ・歩く会世話人会 (15日)
  - ・はぐるま句会 (29日)
  - ・3月月次会「工学部長は語る」 (31日)

### <退社社員>

清水計治・富永幸夫・(株)キリウ

社団法人 桐生倶楽部会報 第152号  
 2006年(平成18年) 4月発行  
 発行人 塚越平人  
 編集責任者 木村隆夫  
 印刷 ツボノ印刷株式会社





# 桐生倶楽部会報

〒376-0035 桐生市仲町2-9-36 社団法人 桐生倶楽部 TEL 45-2755

## 折々の出会い

芳名録から

1943年11月23日来館

井上康文

いのうえ やす ふみ

(1897) (1973)

詩人

### 小田原生まれの口語自由詩

小田原市の公式サイトを開くと小田原市ゆかりの文人欄がある。そこに牧野信一、北原白秋、尾崎一雄、福田正夫、川崎長太郎、北村透谷と並んで、小田原生まれの井上康文が紹介されている。

井上は、1918年の『民衆』の創立に参加した。19歳のとき、福田正夫と出会ったのがきっかけである。『民衆』は大正デモクラシーと呼応するように誕生した口語自由詩のグループだ。

「山や丘の早春は畑の上や梢の上に来たが、ふるさとの顔はひどく寂しい。ふるさとの祭りの街にも、太鼓の音にも、もうあの少年時代の喜びは蘇らない、それが、二重に私を寂しがらせる」

これは詩碑にもなっている『小田原の一月』の一節。叙情派的な詩に優れたものを残した。

芳名録の「海軍報道班員」という肩書きは1943年9月に発行された日本文学報国会編『増産必勝魂』にも登場する。山岡荘八、丹羽文雄、石坂洋次郎、火野葦平ら29作家が一文を寄せたこの冊子に井上の名も。「日本文学報国会詩部会員、詩集『愛する者へ』『土に祈る』『光』。近著『赤道を越えて』。海軍報道班員としてビスマルク群島、ニューギニア。珊瑚海戦に従う」とある。

昭和十八年十一月廿三日

海軍報道班員

詩人井上康文

# — 風 薫 る 文 化 祭 —

風薫る5月。倶楽部恒例の文化祭が12日から14日まで開かれた。絵画や俳句、写真、陶芸など、社員の作品が一堂に会し、最終日のガーデンパーティーは90人の参加者でにぎわった。当日は渡辺敏晴さんのチェンバロ演奏とカウンターテナー小山弘之さんのミニコンサートも行われた。



作品展会場



ガーデンパーティーとミニコンサート (右)

## わたらせ溪谷鐵道の現状と今後 松井専務が講演

### 月次会報告(4月)

4月の月次会は、わたらせ溪谷鐵道の松井幸男専務を講師に迎え、経営難という現状と、これを打開していくためにどのような取り組みが必要かという今後について、語ってもらった。

松井さんは、乗客が減っているとはいえ、通勤や通学など、沿線ではまだまだ大切な生活の足になっていることを数字で示し、鉄道事業の存続をはかっていくことの意義を説いた。そのためにも地元の人たちにもっともっと積極的に利用してもらえ手段を講じていく一方で、観光資源とのリンク、新しいイベント企画によって、一人でも多

くの観光客を誘致したいと意欲をみせ、「沿線のみなさんのご協力をいただきたい」と訴えた。

(4月27日 2階大広間 参加者30人)





## 高尾山とさくら散策 4月の歩く会

快晴ながら風がやや寒い6時に16人の参加者を乗せて、倶楽部前よりバスで出発。メイン幹事の狩野さんが仕事の都合で参加できなくなり車内はちょっと静か、そしてちょっとお上品。途中渋滞も無く順調にバスは走り、京王線高尾山口駅前駐車場に予定時刻より早く到着。駐車場は満杯状態でしたが事前予約してあったので無事に駐車できました。

周りを見ると登山口方向に歩いてゆく人やグループでいっぱいである。登山ルートは6コースあるので皆夫々のコースへ分散してゆく。我々はケーブルカーに乗って高尾山駅まで行き、そこから歩いて薬王院に9時10分到着、記念写真を撮って解散し、自由行動となる。ほとんどの方は咲き乱れる桜を鑑賞しながら、頂上までマイペースで行ったようです。

頂上から桜を前景に絶景の富士山が見え感激。健脚の方二人はここから先の城山(往復2時間の表示)へ出かける。頂上で一服した後は各自好みのルートで集合場所の駐車場に向けて地図を片手に出発してゆく。帰りには両側の桜、つつじ等が咲いて綺麗な、リフトを利用した人が多いようでした。早めに下山して蕎麦屋で一杯の人もいたとか。(蕎麦の話です)

多摩森林科学園は多摩御陵の隣にあり、試験林、樹木園、さくら保存林で構成されていました。入園者は順路に従ってさくら保存林へ、そして遊歩道を1列か2列の状態で見ながらぐるぐると歩き回る。柵内には入れないので、どこか昼食にしようかと思っていると中央付近の斜面に野外劇

場風に木のベンチが並んでいて大勢の人が昼食中、我々も空いている席を個々にとって昼食に。

園内はペットとお酒禁止の掲示があり、桜を愛でながら静かな昼食タイム。園内には400種以上の桜1700本が植えられていて、2月下旬から5月上旬にかけて見ごろとなるそうですが、丁度多種の桜の満開時期にあたり、美しい桜花と沢山の人の人込みの中散策してきました。

真っ白に咲いた“白雪”“白妙”満開になってほぼ真っ白の“薄墨桜”や各種の“枝垂桜”等覚え切れません。十分に花見を満喫して予定より35分ほど早くに桐生に向けて出発。途中早起きによる寝不足と疲れで皆さん夢の中。夢から覚めたところで江原理事より5月例会の案内がありました。

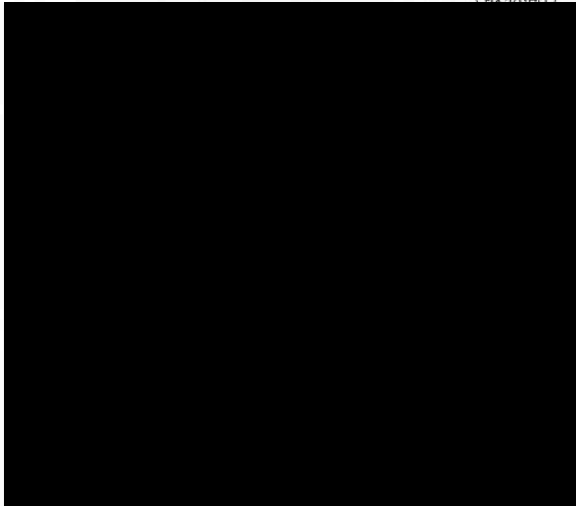
混雑も無く桐生倶楽部に30分以上早く到着し倶楽部の庭の桜の前で集合写真を撮り解散となりました。皆さん長旅お疲れ様でした、お蔭様で予定より早く無事帰着できました。今後の例会へのご参加をお待ちしています。(吉田記)

### 5月の歩く会：茶ノ木平～細尾峠



# ようこそ倶楽部へ

= 新入社員紹介 = (敬称略)



## 工学部、意欲の改革

### 月次会報告(3月)

3月の月次会は、大規模な学科再編と大学院の拡充に取り組んでいる群馬大学工学部の宝田恭之工学部長が、最新の動きをテーマに講演した。

宝田さんは、太田市内での新設学科を含めた学科の再編、国際的なネットワークづくりに重点を置いた大学院の改革についてふれ、「独創的な研究は自然環境のいいところでしか生まれない。その点で桐生のキャンパスは好条件だ。今回の改革で他の大学との競争に生き残りたい。いまこれをしなくては二流、三流の大学になってしまう」と今度の取り組みに意欲を示した。

(3月31日 2階大広間 参加者24人)



### 桐生倶楽部はぐるま句会

三月

東風吹くや天満宮の落慶す	遠藤
分校に同姓九人山笑ふ	尾澤
春泥を土間に残して忌の集ひ	久保田
七色の染糸に東風機の町	小池
道端の長話好き山笑ふ	大槻
一斉に炎立つごと牡丹の芽	有阪

四月

風光る親を離れぬ仔馬かな	久保田
風光るからくり人形町沸かし	小池
菜の花に明かり留める薄暮かな	尾澤
竿はじめ光る風切り第一投	有阪
青きものの畑に整列風光る	大槻
吹かれ来て蝶に見知らぬ山河かな	山田
菜の花の跡切れし所船着場	遠藤

### = 倶楽部だより =

- [4月]**
  - ・全員増強拡大委員会 (3日)
  - ・歩く会4月例会 高尾山と「桜の公園」(9日)
  - ・理事会 (10日)
  - ・歩く会世話人会 (13日)
  - ・行事委員会 (19日)
  - ・写真部会 (25日)
  - ・はぐるま句会 (26日)
  - ・月次会 (27日)
  - ・ゴルフコンペ (30日)
- [5月]**
  - ・麻雀大会 (2日)
  - ・春季囲碁大会 (6日)
  - ・理事会 (8日)
  - ・文化祭 (12日~14日)
  - ・ガーデンパーティー (14日)
  - ・歩く会5月例会「茶ノ木平~細尾峠」(14日)
  - ・歩く会世話人会 (18日)
  - ・はぐるま句会 (29日)

社団法人 桐生倶楽部会報 第153号  
 2006年(平成18年) 6月発行  
 発行人 塚越平人  
 編集責任者 木村隆夫  
 印刷 ツポノ印刷株式会社



# 桐生倶楽部会報

〒376-0035 桐生市仲町2-9-36 社団法人 桐生倶楽部 TEL 45-2755

## 折々の出会い

芳名録から

昭和40年10月30日来館

おく の しん た ろう  
**奥野信太郎**

(1899-1968)

随筆家

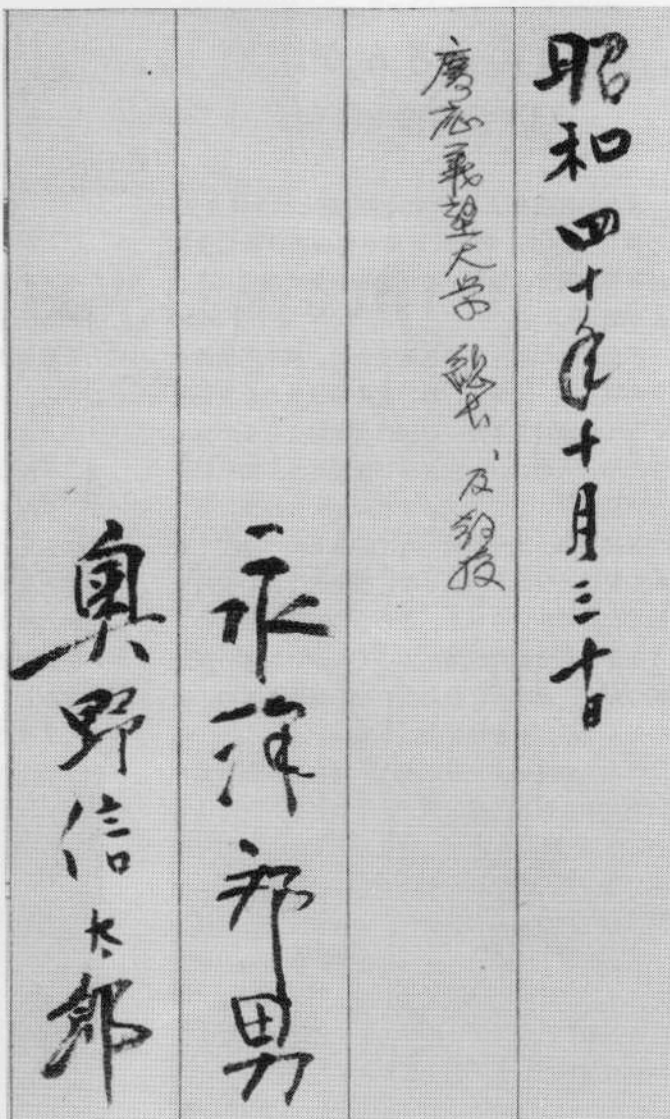
永沢邦男と奥野信太郎は、ともに慶応義塾大学の関係者。永沢は1965年(昭和40年)から69年まで塾長を務めている。ボールペン書きで「総長」とあるのは、芳名録に肩書きが記入されていなかったため、のちに事務局が覚えとして記入したものではないだろうか。

奥野は中国文学者。36年に中国へ留学し、帰国後は外務省ワシントン在勤

## 桐生には たびたび

特別研究員、北京輔仁大学教授をへて、47年から慶応大学の教授となった。「随筆北京」「日時計のある風景」「芸文おりおり」などの随筆のほか、広くマスコミ界で活躍した。60年10月28日、当時の桐丘学園の創立60周年記念式典に招かれ、大妻コタカとともに記念講演をした記録が残っている。倶楽部には65年2月25日にも来館した。

永沢は同大法律学科卒。日本私立大学連盟の会長を務めた。



# 文化財としての 桐生倶楽部学ぶ



## 秋山兵三さんが講演 月次会報告〈6月〉

6月の月次会は、「桐生の文化財と桐生倶楽部」と題し、24日、(財)文化財建造物保存技術協会の前事業部長で、参与・技術管理室長の秋山兵三さんが講演した。

秋山さんは桐生市にある文化財、桐生明治館や彦部家住宅、天満宮、春日社の修復などを責任者として手がけてきた。全国の文化財を数多く見てきた第一人者だ。大正8年に建設され、桐生倶楽部の活動拠点として、いまなお純粋に民間で運営が維持され、現役で使われているという全国でも例を見ない会館。平成8年、桐生市で初めての登録文化財に指定された。この会館をこんごどのようなかたちで保存活用していくのか。目前の課題について、出席した社員たちは、秋山さんの示唆にとんだ話に耳を傾けた。

桐生市の登録文化財は現在、桐生倶楽部会館のほか桐生織物会館旧館、水道資料館、元宿浄水場、水道山記念館、市立西公民館本館、群馬大学工学部同窓記念会館と守衛所と門、金谷レース工業株式会社事務所と鋸屋根、森合資会社の事務所と蔵、森家住宅石蔵、寺内家住宅、松岡商店事務所と蔵、無鄰館、中村弥市商店、旧尾関家住宅主屋、旧曾我織物工場、旧堀祐織物工場、上毛電気鉄道西桐生駅駅舎、金善ビル、後藤織物など。

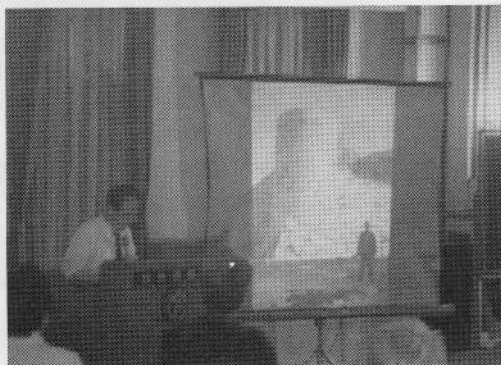
(24日、2階大広間)

## 中東の旅を楽しむ 月次会報告〈7月〉

### 久保田さんが体験談

7月の月次会は、久保田裕一さんがことしの1月に行ってきた中東の旅の報告会。「中東4ヶ国と世界遺産をたずねて」と題し、スライドを交えながら、楽しかった旅の行程を語った。

シリア、レバノン、ヨルダン、イスラエルはいま、一部は戦争状態にあり、緊張に包まれているが、久保田さんが訪れたころはまだ、旅行者の安全は保たれていた。シリア砂漠にあるローマ時代の都市遺跡パルミラ、ダマスカス市内の古い建造物、ヨルダンの神殿とモーゼの碑、ベドウィンの民族衣装、アンマンの円形劇場、そして死海での遊泳と、今回もまた、数多くの思い出を刻んできたようだ。





## 絶好！野反湖

7月の歩く会

歩く会の7月例会は、梅雨明けの野反湖ハイキング。絶好のコンディションと花の見ごろに恵まれた。

(7月23日)

# 6月前日光は雨の中

## 歩く会例会

朝起きた時は小雨模様の天気でしたが、段々と空が明るくなって来たので、定刻7時、自家用車4台に分乗し桐生倶楽部を出発。一路国道122号線を足尾へ、更に粕尾峠に向い、8時40分前日光ハイランドロッジ駐車場に到着、身仕度をし歩き出す。

車道を少しもどり横根山への登山口へ。山中にはまだかなりの「やまつつじ」の花を見る事が出来ました。

雨に洗われた新緑のトンネル、平地とは一味違うおいしい空気を胸いっぱいすって横根山山頂へ(9時30分)。小休止のあと井戸湿原を目ざして下ること約20分くらいで湿原へ、更に15分くらいで「五段の滝」へ。その頃から雨足が強くなり雨具着用、井戸湿原も年々乾燥が進み今では咲き始めた「れんげつつじ」の群落も眺められる。湿原周遊道を巡り、一登りで象の鼻展望台へ(11時)。天気が良ければ遠く富士山、赤城、皇海、日光白根、

男体山等々の山が眺められる所だが残念。雨の中遊歩道を足早に高原ロッジへ(11時45分)。

予定では帰途足尾の「かじか荘」で入浴のはずでしたが、変更してロッジの温泉で雨にぬれた身体を温めて帰る事に致しました。(12時30分)。桐生帰着(14時)。参加者は11人でした。

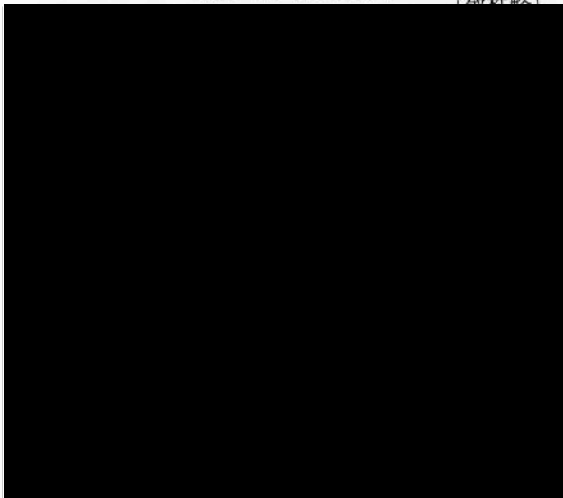
(6月11日)



# ようこそ倶楽部へ

## = 新入社員紹介 =

(敬称略)



### 社交ダンス部会から

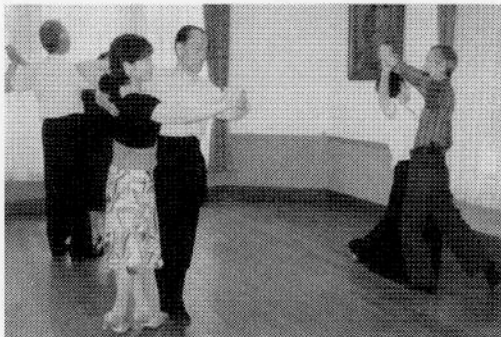
2005年3月19日、田中一男社員の呼びかけにより、「社交ダンス部会」が発足して以来、部員の熱心な練習の継続で楽しい夢と期待を広げています。

毎週土曜日の午後、一号室でベテランの田中一男部長と彼のパートナーの石井松枝さんが指導援助して部員を鍛えております。

未だ初心者は踊れるまでにはいたりませんが、基本の綺麗な姿勢を保ちながら、正しい歩行と足の運び方を意識しながら、動きを習得するために努力を重ねています。今年の桐生倶楽部のクリスマスパーティーに「家族の皆さんとそろって、社交ダンスを楽しく踊るひと時」を組み込みたいと思いい努力しております。

この機会にぜひ桐生倶楽部社交ダンス部会へご入会いただきたいとお勧めいたします。健康にとてもよろしい様です。老若男女を問わず楽しい夢をもちながら社交と親睦を広げて喜びのうちに健康維持の運動が出来ます。なによりも心が若返ります！

(記 保倉一郎)



### 桐生倶楽部はぐるま句会

五月

藍白ふ商家の暖簾夏めきぬ	久保田
豆飯にせむ初もぎの豆を採る	大槻
豆飯や莢から剥きし色のまま	尾澤
帰省待つ母の手料理豆御飯	有阪
薰風にのりて讚美歌ミサ果てる	小池
隠し田の名も薄れゆく麦の秋	遠藤

六月

夏服や写真も古りし小倉服	尾澤
人動き間も動きて螢とぶ	久保田
右に流れ間に消へゆくほかるかな	遠藤
草刈りの思ふほどには涉らず	大槻
在りし日を偲び夏服捨て難し	小池
老ひたれば膝を地に着け草引きぬ	有阪

### = 倶楽部だより =

- [6月] ・全員増強拡大大委員会 (7日)
- ・歩く会6月例会(前日光高原散策) (11日)
- ・理事会 (12日)
- ・歩く会世話人会 (15日)
- ・全員増強委員会 (JC役員と倶楽部理事との懇談会) (21日)
- ・役員特別懇談会 (22日)
- ・月次会 (24日)
- ・はぐるま句会 (27日)
- [7月] ・理事会 (10日)
- ・月次会 (21日)
- ・歩く会7月例会 (梅雨明けの野反湖ハイキング) (23日)
- ・はぐるま句会 (24日)
- ・歩く会世話人会 (27日)

### [退社社員]

細井盛一・飯塚忠男・小林宏至

社団法人 桐生倶楽部会報 第154号  
 2006年(平成18年) 8月発行  
 発行人 塚越平人  
 編集責任者 木村隆夫  
 印刷 ツポノ印刷株式会社





# 桐生倶楽部会報

〒376-0035 桐生市仲町2-9-36 社団法人 桐生倶楽部 TEL 45-2755

## 折々の出会い

芳名録から

1954年9月11日来桐

岸 まし

(1896~1987)

信 のぶ

介 すけ

政治家

第90代首相に指名された自民党の安部晋三新総裁の母方の祖父である。山口県生まれ。東条内閣の商工相を歴任し、戦後、A級戦犯容疑で巣鴨拘置所に入ったが不起訴処分となり、57年の2月に、石橋湛山首相の病氣退陣で首相に就任した。激しい時代のうねりが、日米安保条約の改定を

## 60年安保の首相

めぐって巻き起こった。国会周辺ではこれを阻止しようと30万人がデモ行進。その喧騒の中で自民党政権は条約の批准を強行したが、まさにその渦中にいたのが岸首相である。この条約の成立を見届けて、60年7月、退任した。

桐生倶楽部には愛弟子の福田赳夫さんと一緒に訪れた。ふだん、あまり感情を表に出さない人だったが、例外が一度。その愛弟子が総裁選で田中角栄さんに敗れたとき、とても落胆した表情を見せていたと、後に家族がそう語っている。



# 楽しく美しい写真の撮り方

九月の月次会は、蓼沼敏夫さんを講師に招いての恒例写真講座。「楽しく美しい写真の撮り方」を学んだ。(9月12日、2階大ホール、参加者26人)

## ◎光の種類と効果を知ろう

フォトグラフとは「光の描く絵」という意味です。撮影する時は、どんなに少なくとも良いから光が必要になる。その光のことを知っているのと知らないのでは、写真の内容もかなり違ってくるので、ぜひその特徴を覚えてほしいです。同じ被写体でも、光の当たり方によって違った印象に写ることは経験したことがあると思います。狙った被写体が生き生きと美しく写る光を選ぶことが、良い写真を撮る第一歩です。

## ◎自然光

太陽光を光源としている光のこと。時間や、天候、季節によって質や色が変わるので、その特徴をつかんでおくことが大切です。

## ◎透過光

光が被写体を通過し、その光線によって被写体の質感などを写し出す光を、透過光と呼びます。透過光の生きる被写体といえば、まずは紅葉でしょう。もちろん新緑も同じような条件です。

## ◎順光

被写体に対して、光が正面から当たった光線状態のことです。多少左右にズレていても、一般的には順光と言います。正面から光が当たるので、被写体に影が少なく明るく写ります。

## ◎斜光

被写体に対して、斜め上から光が当たった光線を斜光と言います。明暗の差が適度に表現できるため、被写体のメリハリが出せます。

## ◎逆光

被写体に対して、光が後ろから当たっている光線状態を、逆光と言います。逆光撮影では被写

## メリハリ、しっとり、工夫しだいで

### 月次会報告 (9月)

講師・蓼沼敏夫さん

## ◎人工光

人工的な光源から出た光で、蛍光灯や電灯など身の回りにある照明器具やストロボなどの光をいう。光源の種類によって、さまざまな色になり、たとえば蛍光灯はグリーンがかり、ネオンは見たままに写る。

## ◎直射光

太陽光の強い光など被写体に直接当たった光を言う。光質としては硬い光で、当たった所と当たらない所の差が非常にありコントラストが高くなる。

## ◎間接光

直射光が一度ものに当たって、反射した光をいう。物に当たった光は、拡散されているので、光質としてはかなりやわらかく、ソフトな光になっている。反射光なのでバウンスライトともいいます。

体がシルエットになりやすいし、フレア(乱反射)が出やすくなります。

## ◎曇天・雨(拡散光)

曇り空、雨だから撮影はできても良く写らないと考えてはいませんか?とんでもないです。すばらしい写真が撮れます。薄曇りのとき、柔らかい光がよくまわり、しっとりとしたきれいな色が再現できます。また雨のときは、花などがみずみずしくなり、葉についた水滴なども効果的になります。



# 芸術探訪安曇野の旅

## — 歩く会・美術部9月例会 —

出発時刻5時30分、フロントガラスを打っていた雨も、藤岡JCTを過ぎる頃には止み、願っていた青空が顔をのぞかせる。

歩く会&美術部共催の桐生倶楽部9月例会は安曇野の自然と芸術を訪ねる旅。バスは順調に時と距離を刻み、最初の目的地「大王わさび農場」へ着く。農場内の木陰を歩む時、吹き抜ける風に心が洗われる心地がした。その空気は足元を流れる清冽な水が生み出したもの、と思えた。流石安曇野の地、と納得。

試食した山葵の辛さに身を引き締めて次の目的地「碓山美術館」へ向かう。

バスの中で保倉氏より話のあった萩原守衛（碓山）と相馬黒光のエピソード、その余韻も冷めぬまま、緑に包まれた門を過ぎ、チャペルの形を模した館に入る。

そこには碓山が心血を注いだ彫刻（塑）群がそれぞれの場所を静かに占めていた。さほど大きいとは思えない金属の塊やデッサンでありながら、館内一杯に張り詰めた空気を生み出していることにこの作家の並々ならぬ気魄と圧迫感を受けながら、

しばしの充足感を味わった。

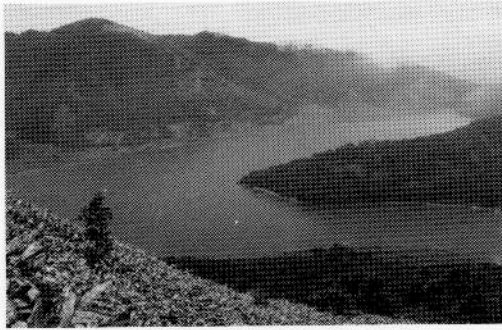
九月の風に吹かれながら次に到着したのは、「安曇野ちひろ美術館」。案内には、“教養を身に付ける場としての美術館ではなく、無意識のうちに美術を楽しめる空間……”とある。

それは、子供と共に世界の平和を願いながら絵本作家として生きた「岩崎ちひろ」の作品に出逢える所であった。入館者はその一人ひとりがゆったりとした時間に身を委ねている姿が印象的であった。

昼食は安曇野を一望出来る「穂高食房味彩館」で蕎麦会席を賞味。美味の何%かは清浄な空気か？

ゆったりとした時を過した後は「大町山岳博物館」へ向かう。「岳（だけ）のまち大町」にふさわしい日本初の山岳博物館は、登山の歴史の記録にとどまらず、自然の生きた学習の場であり、温暖化等地球の未来を考えさせられる場でもあった。沢山の収穫を得た後、帰桐18時50分、参加者33名、全員十分満足の表情で帰宅の途へ。

（美術部 渡邊 保）



### 野反湖花いっぱい 歩く会6月例会

7月23日朝5：30桐生倶楽部出発、小型バスで参加者11名。未だ梅雨は明けず、九州方面では豪雨の天気予報が出ている中、「群馬・新潟地方は曇り」の予報に望みをかけての出発でした。中之条を経て、8：20野反湖北端の展望台駐車場到着、下車。野反湖は上信越高原国立公園に属し、群馬・長野・新潟の県境に位置し、周囲12km、標高1,514米のダム湖で、湖水は魚野川から信濃川に合流して日本海に注いでいます。又、ダムは1956年竣工で、石を積み上げた「ロックフィル」という特殊な工法も注目に値します。ダムを渡って、エビ山への登山道入り口へ至る。幸い天候はうす曇りから晴れへと変わり、クマ笹と灌木に覆われた径を登って、10：10エビ山（1744米）着。山頂周辺では「ノハナショウブ」「ハクサンフウロ」「ノゾリキスゲ」「コオニユリ」を見ることが出来ました。ここから二手に分かれ、「健脚組7名」は高沢山（1906米）～三壁山（1974米）を経て、駐車場へ。当初予定の「カモシカ平」は、遠望にて花が咲いている様子が無いので、取り止めました。6・7月の日照不足の影響の様です。「ゆっくり組4名」はエビ山から湖畔へ下り、花の写真を撮りながら、湖西岸を駐車場迄。上記の他見かけた花は、「ノハラアザミ」「ジョウシュウオニアザミ」「ヤマオダマキ」「シモツケソウ」「オトギリソウ」「ヤナギラン」「ヤマアジサイ」他多数。13：10駐車場発、帰路途中、六合村・赤岩の「長英の隠れ湯」で汗を流し、17：30桐生帰着。梅雨明け前の僅かな晴れ間の中、花いっぱい山の山行でした。（村田記）

桐生倶楽部はぐるま句会

七月

雨上り白壁映ゆる青田かな	夏座敷ひろげしままの句集かな	息災を喜び合ひて夏座敷	喧騒の去りて風のみ夏座敷	朝顔を休みに入ると持ち帰り	朝顔が窓からのぞく露地の家
有 阪	小 池	大 槻	久 保 田	遠 藤	尾 澤

八月

流れ星咄嗟によぎる願い事	流星の城跡の峰に消えにけり	枝門のカンナ明るく迎へけり	兵征きし駅舎にカンナ咲いており	病葉のひとひら浮かぶ手水鉢	広島は今日も青空カンナ咲く
有 阪	遠 藤	大 槻	久 保 田	小 池	尾 澤

#### = 倶楽部だより =

- 【8月】 ・理事会 (7日)
- ・はぐるま句会 (29日)
- ・会員増強委員会 (30日)

- 【9月】 ・月次例会（歩く会・美術部協賛）(10日)
- ・理事会 (11日)
- ・月次会 (12日)
- ・歩く会世話人会 (14日)
- ・会員増強委員会 (29日)
- ・はぐるま句会 (30日)

#### 【退社社員】

関口幸三郎 ・ 小 島 幸 雄

社団法人 桐生倶楽部会報 第155号  
 2006年（平成18年） 10月発行  
 発行人 塚越平人  
 編集責任者 木村隆夫  
 印刷 ツボノ印刷株式会社



# 桐生倶楽部会報

〒376-0035 桐生市仲町2-9-36 社団法人 桐生倶楽部 TEL 45-2755

## 阿部新理事長にバトン

がっちり握手をかわす阿部新理事長(左)と塚越理事長



# 創立90周年に向けて総力

### 矢野、森、山口 3氏が副理事長

桐生倶楽部の平成19年度定時社員総会が1月31日に開かれて、第11代理事長に阿部高久氏を、副理事長に矢野昭、森壽作、山口正夫3氏を選任し、それぞれ承認されました。

平成3年から8期16年にわたって理事長をつとめた塚越平人氏、さらに、副理事長の小池久雄氏、五十嵐健雄氏も退いて、新しい時代の舵取りを委ねました。新体制は今後、来年に控えた創立90周年という倶楽部の大きな節目に向けて、全力を注いでいくこととなります。

阿部新理事長は「桐生倶楽部の将来についてみなさんと語り合い、会員増強を進めていきたいと

思っています」と語り、その重責をかみしめながら、力強く一步を踏み出しました。

理事長=阿部高久

副理事長=矢野昭、森壽作、山口正夫

会計=竹内康雄、松島宏明

理事=佐藤富三、岸芳正、赤石清安、北川洋、大西康之、坪井良廣、江原毅、根津紀久雄、前原勝

新理事=塚越紀隆、藤江篤、岸田信克

幹事=酒井豊、押見新一郎(新)

退任理事=塚越平人、小池久雄、五十嵐健雄、木村隆夫



# 桐生倶楽部会報

〒376-0035 桐生市仲町2-9-36 社団法人 桐生倶楽部 TEL 45-2755

## 折々の出会い

芳名録から

大正10年3月来桐

大 おお  
 芝 しば  
 惣 そう  
 吉 きち

(1868-1925)

群馬県知事

書家の目からみると、この人の筆の運びのよさは群を抜いているらしい。大正期に2度、群馬県知事をつとめている大芝惣吉である。

原敬の直系といわれ、県会で少数派だった政友派を絶対多数に転じてしまうなど、辣腕をふるった政治家だが、その強引さのおかげで、桐生の人々はずいぶんと泣かされている。

## らつ腕政治家

ひとつには町立中学校の県立移管問題。町の財政で中学校を維持していくのは容易ではなかったが、大芝は首をたてにはふらなかった。

その理由は、当時の桐生の有力者の多くが非政友会であり、地元は憲政会の飯塚春太郎を応援していたからだ。このため、町長の前原良太郎と

町会議員の前原悠一郎は、ある雪の日に前橋の知事官邸に赴いて、政友会への同調を約束した。大芝は態度を一変し、県立移管は翌日、議会をすんなり通過したという。

来桐の日、桐生は市制施行にわいていた。ただしこの問題はそこで一件落着とはいかず、前原新市長と前原市議会議長はその後、政争の渦中に引きずりこまれていくことになる。



(歩く会10月例会より)

大菩薩嶺から望む富士

## 月次会報告(10月)

本一・本二の会、熱く語る  
まちづくり新構想

歴史的な建造物や文化遺産の保存活用によるまちづくりをすすめている「本一・本二まちづくりの会」が、このほど桐生新町まちづくり新構想を策定した。10月の月次会は、同会の森壽作会長を講師に招き、構想の概要と、まちづくりに対する基本的な考え方、実現に向けたこんごの取り組みなどについて聞いた。

同会が、本町一丁目、二丁目とその周辺地区の振興のため、さまざまな社会実験と研究、協議を重ねてすでに6年。町並みや伝統文化、住民の思いを生かしたまちづくりの方向性は固まり、これをさらに発展させ、住民の総意として実現させていきたいと、まとめあげたのがこの構想だ。

策定にあたっては、地区の現状と課題を分析して、歴史の記憶、教育環境、なじみ深い数々の商店の魅力を最大限に生かし、将来にわたって豊かな暮らしが続けられるようにし、加えて、桐生市の観光の拠点地区となって、まち全体の発展の役割を担っていける土台作りを理念にすえた。

そのためにも、歴史的町並みの保存構想やコミュニティ往来構想、まちなかキャンパス構想などの優先的課題に力を注ぎ、実現に向けた取り組みを軌道に乗せていきたい思いを、森会長、そして大内栄さんが熱く語った。

(10月27日、2階大広間、参加者24人)



## e-Taxの勧め

講師に三瓶さん

## 月次会報告(11月)

11月の月次会は「国税のIT戦略、e-Taxの勧め」と題し、桐生税務署総務課長の三瓶伸一さんが講演した。

三瓶さんは、現在国をあげて取り組んでいるe-Japan計画について概略を解説し、平成13年からの5年間で、国税のシステム化がかなりすすんでいることを説明した。しかし、運用面においては、国税電子申告はまだまだ利用が一部にとどまっているのが現状。当面、平成22年度の利用率50%を目標に設定し、普及に向けた取り組みに全力投球している最中だという。

パソコンはすでに多くの事業所、家庭で利用しており、いずれは電子申告、納税を、いつでもどこからでも出来るようにし、ゆくゆくは行政をスリム化したいというのがe-Taxの目標だ。

電子申告、電子納税が従来の書面手続きに比べていかにスムーズか、そうした普及を根底から支えるセキュリティー対策が現状はどうなっているかなど、つぶさに解説し、出席者からのさまざまな質問にも、丁寧にこたえていた。

(11月27日、一号室。参加者20人)

# 素晴らしきハイキング



## 絶景！大菩薩嶺

10月15日(日)、桐生倶楽部「歩く会」月例山行日である。

行先は、日本百名山にノミネートされている「大菩薩嶺」…。

私にとっては、初めての山。そして、今年初めての参加である。

朝5時、薄暗いなか、バスは桐生倶楽部を出発。本日の参加者は男性ばかり13名である。(ウッー、無念)

青梅IC着 6時40分。桐生から僅か1時間30分余。早いですねえ…。高速道路の威力を教えられました。

そこから、途中、かの有名な都立多摩高校を車窓から眺めながら、奥多摩街道を走りますが、これがまた、くねくねと、なが～い、なが～い道程で、いい加減うんざりしてきた頃、柳沢峠とやらに到着し、Toilet-Time。

いよいよ大菩薩峠への登山口・上日川峠に向かうが、結構な急坂でバスも喘ぎ、喘ぎの走行である。

9時20分。上日川峠に到着。天気もよく、東京から近いせいか、大勢の登山客が続々と歩き出していて、我々も早速準備を整え、9時30分大菩薩峠に向かってStartした。

大菩薩峠への道は広く、よく整備されていて、一部紅葉の始まった林を楽しみながら、淡々と歩き続けると、あっけなく大菩薩峠に着いてしまう。とにかく快晴…！この大菩薩峠から大菩薩嶺に向かう緩やかな稜線歩きは素晴らしく、左側がササの斜面のため遮るものもなく、近くに富士山を望みながら、心地よい汗を感じる。およそ40分くらいで大菩薩嶺に到着—残念ながら、展望はない。昼食は、途中通過してきた雷岩で摂ることになって、そこまで戻る。

暖かな陽気につつまれ、明るい空の下、富士山を前にして頬ばるおにぎりは美味しさ100倍である。やっぱり、山登りはこうでなくっちゃ…！私はビールを飲み、ウィスキーをいただき、どこかの奥様手造りのおかずにも手を出したり…と、大満足で

ある。

ゆっくり休み、たらふく食し、後は温泉を楽しむ一気に、「福ちゃん山荘」まで下る。

皆さん、元気…。誰も「休もう…！」と言わない。

「福ちゃん山荘」で暫し休憩後、バスの待つ「長兵衛小屋」まで、わざわざ遠回りして、秋の気配を存分に味わいながら、午後1時、登山口に戻った。

「長兵衛小屋」でビールを飲みながら、肥塚さんの戻りを待っていると、黄門様よろしく、後藤さんを助さん役に、悠然と戻ってきた。肥塚さんも緩い歩みながら、大菩薩峠まで頑張ったらしい。ご立派…！

さあ、これで全員、無事下山…「さあ、温泉で汗を流しましょう」

本日お楽しみの温泉は「大菩薩の湯」。バスで向かう途中、ふと右に鬱蒼とした境内と山門から長い階段の続くお寺が目に入った。

博識な肥塚さんが「ここは慈雲寺とって、武田信玄ゆかりの名利である」との言葉を聞いて、急遽立ち寄ることになった。

境内には、大きな桜の老木が本堂の前にあり、後藤さんは、早くも来春に想いを馳せて、写真を撮りに来たような素振りであった。

「大菩薩の湯」は賑わっていた。大きな浴槽と明るい窓で、清潔感がある。私なぞ、のんびりと楽しみたいところだが、本日の担当世話人は中里さん…だから、時間制限があって、しかも短い。これが、私には辛いのです。汗を流して、さっぱりしたところで、いよいよ帰路に就く。

途中、御岳駅前の土産物店でアルコールを補充し、バスの中はますます賑やかになり、海野さんは「今日の山行は、最高だった。減多にない。本当に最高だった。」と何度も何度も繰り返して、それに頷きながら、うつらうつらしているうちに、いつの間にかバスは予定時刻どおり、午後7:30 桐生倶楽部に到着となった。

いや、それにしても山登りの楽しさ、素晴らしさを再確認できた思い出深い山行となりました。

来年は、もっと参加するぞお…！ (狩野 記)



吾妻溪谷、記事は4面



### 吾妻溪谷の紅葉堪能

関東の名峽として知られている吾妻溪谷は数年後にはダムに沈んでしまいます。その前にすばらしい景観を記憶にとどめておこうと、溪谷が一番美しい紅葉の時期に訪れました。

11月12日、桐生駅からの参加者17名は6時25分発高崎行きに乗車。前日の予報では低気圧のため大荒れの天気になるとのこと、渋川駅で参加した曾我さんの話でも水上から沼田の先まですでに雪になっているとの話を聞き雪の心配をしながら行きました。

今日は川原湯温泉駅からの溪谷コースで、駅から右岸を歩き鹿飛橋を渡り左岸に出て国道沿いの遊歩道を駅にもどります。右岸はアップダウンの厳しい山道で、想像以上に川の流れよりも高い所を歩きます。紅葉した木々のあいだから遥か下に見える流れは清冽で、すばらしい景色がつづきます。また山々も赤や黄色に彩られ、どこを撮っても絵になる風景でした。車で通るとの違い、やはり吾妻溪谷は歩いて見て一層、溪谷の素晴らしさがわかるのだと皆で実感しながら歩きました。

約2時間景色を堪能した後、駅より上流にある川原湯温泉に向かいました。温泉街に入ると何かものさびしく町の精気が感じられず、何か所かすでに建物が取り壊された跡があり、また商店には品物があまり置いてない様子で、何十年にもわたりダム建設で振り回された町の悲哀を目の当たりにしました。ダム建設の影で地元の人々の生活が壊されているように感じました。

この温泉は源頼朝により開湯されたと伝えられ約800年の歴史がある名湯で、昔ながらの共同浴場“王湯”に入りました。すこし熱いお湯でしたが冷えた体に温かさがこちよく、疲れがとれて気持ちのよい温泉でした。ここで持参した昼食を食べたのち全員元気に帰路につきました。この日関東地方では木枯らし1号が吹き北風の強い寒い日でしたが吾妻溪谷の良さを再発見した1日でした。

(栗原 記)・写真は3面

#### 4氏に銀盃

厚生労働大臣表彰を受けた福田英雄さん、岡田成雄さん、疋田博之さん(文部科学大臣表彰)、瑞宝小綬賞を受章した藤井光二さんの四社員が、平成19年新年互礼会で銀盃を授与される。おめでとうございます。

咲き満ちて露に濡れけり女郎花	畑荒らす猪のことなど散歩道	語り部の語りほつ／＼聞くいとど	水澄みて浮きの波紋の軽さかな	銭洗ふ弁天池の水澄める	一村の沈みしダムの水澄めり
有 阪	小 池	遠 藤	尾 澤	久 保 田	大 槻

湯の香り紅葉染みこむ露天風呂	おおこれが終の栖かそばの花	見頃には早しと言ひつ紅葉狩	旅暮れて蕎麦の花咲く信濃かな	山幾重信濃戸隠蕎麦島	草紅葉畦の野仏笑み給ふ
有 阪	遠 藤	大 槻	久 保 田	小 池	尾 澤

桐生倶楽部はぐるま句会

九月

十月

#### = 倶楽部だより =

- [10月] ・理事会 (10日)
- ・歩く会10月例会 (15日)
- (大菩薩嶺紅葉の山行)
- ・役員特別懇談会 (16日)
- ・歩く会世話人会 (19日)
- ・はぐるま句会 (25日)
- ・行事委員会 (25日)
- ・月次会 (27日)
- [11月] ・歩く会11月例会 (12日)
- (吾妻溪谷紅葉ハイキング)
- ・理事会 (13日)
- ・歩く会世話人会 (16日)
- ・はぐるま句会 (21日)
- ・月次会 (27日)
- ・写真部会 (28日)

#### [退社社員]

廣田 博司

社団法人 桐生倶楽部会報 第156号
2006年(平成18年) 12月発行
発行人 塚越平人
編集責任者 木村隆夫
印刷 ツポノ印刷株式会社

# 折々の出会い

芳名録から

昭和2年5月13日来桐

桑島定助

(1867-1948)

キリスト教社会主義者

## 養蚕の発展に尽くす

赤城山のふもと、富士見村生まれのキリスト教社会主義者、県会議員、そして農政の指導者である。船津伝次平の教育を受け、養父の指導で蚕糸業に打ち込み、品種改良や飼育法の改善など、生涯をかけて養蚕群馬の発展に尽くした。

桐生倶楽部へは県会議員仲間と一緒に訪れている。戦後は社会党の県連最高顧問をつとめた。

桑島定助

# 就任のごあいさつ

理事長 阿部 高久

平成19年度定時社員総会において、塚越理事長の後任として第11代理事長に就任いたしましたことは、私にとって大変名誉なことであるとともに、その責任の重大さを痛感しております。

大正7年に設立した桐生倶楽部は、その設立目的に『本倶楽部は会員相互の知識を交換し、親睦を敦ふし公益に関する事業を攻究し、之が遂行を期するを以て目的とす』とありますが、正に研鑽の場であり、親睦の場であり、地域振興の場でありました。こうした創立の精神を忘れずに誇りを持って活動を続けていきたいと思っております。

桐生倶楽部会館は民間の力を結集して大正8年に建設されましたが、以来社員の力だけで会館を守り続けて参りました。建物は使われてこそ生き続けるものということを歴史に学び、桐生のシンボルともいべきこの近代化遺産を活用しながら修復し、次の世代に引き継いでいくことが我々の使命であります。しかしながら会館の修復費は社員の会費の一部で賄って参りましたが、築後89年になりますから今後はさらに多額の資金が必要になって参ります。

最近の経済情勢の中で社員の減少傾向が続いており、歯止めが掛からない状況です。社員増強ができなければ建物の修復が困難になって参りますので、社員の皆様も是非お仲間を推薦していただきたいと思っております。

正に社員増強は桐生倶楽部の最重要課題であります。昨年度新設された会員増強拡大委員会には大変期待をしているところでありますが、委員会では社員増強は勿論のこと、法人会員も増強していこうと計画しております。企業の社会貢献活動の一環として参加して頂くようお願いをしていかなければなりません。更に、日本の社会の中は依然として男社会であります。ようやく各界各分野で女性が進出しておりますので、桐生倶楽部も女性会員の入会を検討する時期にきていると思っております。

さて、昨年の通常国会で公益法人制度改革の関連三法案が可決いたしました。社団法人桐生倶楽部も一般社団法人になるのか、あるいは新公益社団法人を目指すのか、という岐路に立たされております。新公益社団法人の認定を受けるには様々な基準がありますが、公益目的の事業割合が50%を超えることが最も大きな条件です。桐生倶楽部にとっては大変厳しい認定基準です。新公益法人を目指すならば、会員対象から一般市民対象の社会貢献事業など公益事業を増やしていく必要がありますが、今後その対応について検討していかなければなりません。

来年度、桐生倶楽部は90周年を迎えます。そこで桐生倶楽部の現状と将来について語り合う場を増やしていくべきではないかと考えます。年2回行われている役員特別懇談会では、桐生倶楽部の諸問題や活性化などについて様々なテーマで討論が行われてきました。チャリティー事業、募金活動、女性会員、地域との関わり方、国際奉仕、魅力ある倶楽部ライフ等々であります。こうしたテーマで、月次会などで社員の皆さんと語り合いたいと思っております。そうした中から21世紀の桐生倶楽部はどうあるべきか、どう変わるべきか、桐生倶楽部の進むべき方向が見えてくるのではないかと思います。

とにかく、桐生倶楽部の発展のために出来るところから実行し、楽しい桐生倶楽部にしたいと思っておりますので、皆様方のご支援ご協力を心からお願い申し上げ、就任のご挨拶と致します。



## 都電荒川線で探訪

地球温暖化防止・二酸化炭素の削減が叫ばれる中、最近「路面電車」が脚光を浴びています。歩く会12月例会は、東京に唯一残る路面電車「都電・荒川線」をテーマに文化探訪の旅をしました。明治44年(1911)創業の都電は、自動車の普及に押されて昭和40年代に殆どが廃止されました。

その中で住民の強い要望や代替交通手段がない上、大部分が専用軌道だったことから27系統(三ノ輪橋～王子駅前)と32系統(荒川車庫～早稲田)を一本化して、昭和49年、三ノ輪～早稲田間を都電荒川線として発足、最後の都電として存続しています。12月11日(日)定刻の朝7:00桐生倶楽部を出発、参加者35名。川口SAにて休憩後、9:30に文京区関口にある「東京カテドラル・聖マリア大聖堂」へ到着。ここはカトリック教会の東京地区の総本山。丹下健三(1913～2005)が設計、1964年竣工。礼拝堂内部はクリスマスを目前に華やかに飾りつけられて、訪れた人々の眼を楽しませてくれました。10:00には目白通りを挟んで向かいの「講談社・野間記念館」へ。創業者・野間清治が収集した「野間コレクション」並びに、講談社の出版事業に関わる貴重な出版文化遺産を収蔵・展示している美術館です。「関口芭蕉庵」は、目白通りから少し入った神田川沿いにある樹木いっぱいのお庭。大正15年に東京府の指定史蹟にされ、「古池や・・」の句が、芭蕉の真筆で石碑になっていました。

11:30、早稲田大学構内・演劇博物館に到着、ここで金井さんと合流。本日の参加者には肥塚・田中・金井(敬称略)の早稲田出身者がいて、銀杏が美しく色付いたキャンパスに懐かしさを隠せない様子。「演博(早稲田の人はこう呼ぶそうです)は1928年(昭和3)、坪内逍遙が古希(70歳)を迎えたのと、「シェークスピア全集」全40巻の翻訳が完成したのを記念して、各界有志の協賛

により設立されました。錦絵・舞台写真・図書・衣装・人形等世界各地の演劇資料数十万点におよぶ膨大なコレクションは、演劇人・映画人ばかりでなく、文学・歴史・服飾・建築等様々な分野の研究に貢献しています。建物は坪内逍遙の発案で、エリザベス朝時代(16世紀イギリス)の劇場「フォーチュン座」を模して今井兼次らにより設計されました。参加者一同、建物の美しさと展示の内容に感激。お手配頂いた金井さんに改めて感謝申し上げます。

早稲田からは各自160円の乗車賃を払って庚申塚まで20分程の都電の旅。ゆっくりしたスピードと、発車前に必ず鳴らす「チン・チン」の音に、心が和みます。都電を降りると「おばあちゃんのお宿」と呼ばれている「とげぬき地藏・高岩寺」の参道商店街でフリータイム・昼食。「4の日」には縁日が出て、参道および境内は参拝客であふれるそうです。14:45に再び庚申塚から都電に乗って「飛鳥山」迄。「飛鳥山公園」は八代將軍徳川吉宗の指示で1270本の桜を植え、大岡越前の時代、庶民のためにこの地を花見の地にしたのが始まりといわれる公園。現在に至るまで桜の名所となっています。園内には「紙の博物館」「北区飛鳥山博物館」「渋沢栄一資料館(旧法沢邸・青淵文庫、晩香廊・ゲストハウス)」が在ります。晩秋の園内を散策・ティータイム。16:30にバスに乗車、予定より早い18:30に桐生倶楽部へ帰着。穏やかなお天気に恵まれて、迷子や事故も無く、楽しい晩秋の旅となりました。

(村田記)

## 吾妻山山頂で一年の安全祈願

1月7日午前9時、参加者12名で本年の初山行出発。吾妻山山頂のお社へ今年1年の山行の安全をお祈りした後、宮本町「そば一」で改めて賀詞交換。穏やかなお天気に恵まれて、正月に相應しい山行でした。

(村田記)



### クリスマス祭心ゆくまで

桐生倶楽部の恒例クリスマス祭が12月9日に催された。社員とその家族およそ70人が、きれいに飾り付けられた2階大広間に集まり、須永由起子さんのピアノと藤井順子さんのバイオリンのミニコンサートがムードを盛り上げ、本番へ。

子どもたちはサンタクロースからプレゼントをもらって大喜び。参加者たちは用意されたご馳走を味わいながら、心ゆくまで語り、楽しんだ。

(12月9日午後4時、2階大広間)



### 藤門会が門出に花 恒例 新年互礼会

桐生倶楽部の恒例、新年互礼会が4日、大勢の来賓を招き、催された。塚越理事長が新しい年の抱負を込めて、伝統ある桐生倶楽部の社会的役割を、社員ひとりひとりがしっかり意識を深めていこうと語り、大澤桐生市長をはじめとした来賓からは、倶楽部に対する期待の言葉が述べられた。

このあと互礼会は祝宴に。宝生流藤門会が鶴亀を披露し、新しい年の門出に花を添えた。

(1月4日正午、2階大広間、57人参加)



### はぐるま句会が入会者募集

はぐるま句会では入会者を募集している。「俳句に興味をお持ちの方はぜひご参加ください。気軽に楽しめます」と、呼びかけている。

### 桐生倶楽部はぐるま句会

十一月

行く秋の赤城に雲の見当らず 遠藤

札所一番杉本寺の落葉かな 小池

行秋やケルン積みみる山男 尾澤

行く秋の瀬音を耳に釣仕舞 有阪

氏神へ願ひ事でき神の留守 大槻

落葉掃き奉仕の集ふ鎮守かな 久保田

十二月

枯れ盡きし蓮田一面遠筑波 尾澤

清涼の一打響きし神楽殿 大槻

狐撒く餅に童ら里神楽 遠藤

杉木立笛の音しばし里神楽 有阪

はね上げし笹の湯の散る神楽かな 小池

翁面とれば若人里神楽 久保田

### = 倶楽部だより =

- 【11月】 ・文化活動委員会 (5日)
- ・クリスマス祭 (9日)
- ・歩く会12月例会  
「都電荒川線 沿線散歩」(10日)
- ・理事会 (11日)
- ・懇話会 (15日)
- ・はぐるま句会 (21日)
- ・臨時理事会 (26日)
- ・会員増強拡大委員会 (26日)
- 【1月】 ・新年互礼会 (4日)
- ・歩く会1月例会「吾妻山」 (7日)
- ・理事会 (9日)
- ・歩く会世話人会 (11日)
- ・監査会 (13日)
- ・はぐるま句会 (24日)
- ・臨時理事会 (31日)
- ・定時社員総会 (31日)

### 【退社社員】

須田 富次

社団法人 桐生倶楽部会報 第157号  
 2007年(平成19年) 2月発行  
 発行人 塚越平人  
 編集責任者 木村隆夫  
 印刷 ツボノ印刷株式会社



# 桐生倶楽部会報

〒376-0035 桐生市仲町2-9-36 社団法人 桐生倶楽部 TEL 45-2755

## 折々の出会い

芳名録から

昭和61年5月31日来桐  
 浅田晃彦  
 (1915-1996)  
 作家

作家・浅田晃彦と桐生との関係は深い。坂口安吾、南川潤、小池魚心、周東隆一と、その交遊録の敷衍にはここでは紙幅が足りないが、いずれも彼の創作に有形無形の影響を残した人である。

勢多郡富士見村で六人きょうだいの二男に生まれた晃彦は、前橋中に入學し、医の道を志す。慶応大学に進み、病氣療養による休学などをはさんで昭和17年、陸軍軍医となるが、このころすでに懸賞小説に入選したり、また、ギターや油絵や囲碁をたしなみ、倉田百三主宰の「生きんとての会」で熱心に活動するなど、豊かな文化的素養に突き動かされるように、日々を励んでいた。

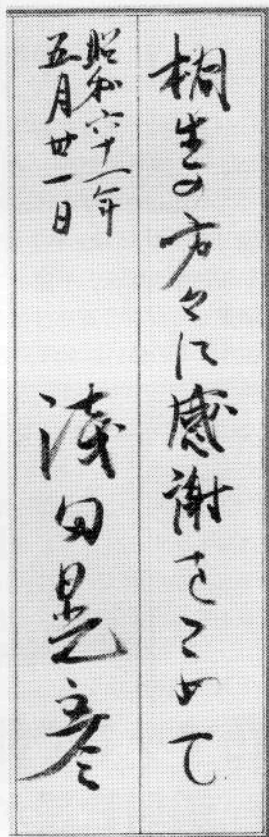
終戦後、捕虜たちの作品を集めて文芸雑誌「草原」を発刊。復員して後、前橋で開業したが、昭和24年に「唯一の真実」が懸賞に入賞し、執筆活動のよりよい場所を求めて勤務医となり、やがて坂口

## 桐生とともに

安吾や南川潤との交遊が始まったという。

浅田は南川について「私の文学上の恩師」だといい、その南川の紹介で坂口と交わり、坂口と周東とは多胡碑、馬庭念流鏡開きに同行し、小池とは神社仏閣めぐりを重ねた。

「桐生の方々に感謝を込めて」。芳名録に記したひとは、人柄である。「(参考・土屋文明記念文学館企画展「桐生ルネッサンス」図録)



### 写真、資料収集に協力を

営繕委員会は、桐生倶楽部のむかしの写真や活動の記録、または関連資料の収集と整備に着手する考えで、「社員で所有している方はぜひ連絡してください」と協力を呼びかけており、大西副委員長は「二階の岡田晴峯氏の絵について、関連の資料があると助かります」と話している。(連絡

は事務局まで)

### 塚越さん、顧問に就任

桐生倶楽部は、2月の理事会で塚越平人さんの顧問就任を承認した。阿部高久理事長の提案を受けたもので、顧問職は初。塚越さんは、平成3年から8期16年にわたって理事長を務め、さる1月の社員総会で、理事を退任した。

# チームバナナの若さと笑い

## 月次会報告 (2月)

2月の月次会は21日、話題の漫才コンビ「TEAM BANANA」を招き、昨年のM-1甲子園でみごと全国優勝に輝いた実力あるしゃべりと、息のあったテンポを堪能した。

山田愛美さんと藤本友美さんは桐生商業高校の3年生だった昨年8月、大阪のなんばグランド花月で開かれた全国高校お笑い選手権「イオンM-1甲子園」に出場し、並みいる強豪を抑え、一躍トップに躍り出た。卒業してプロの道を目指そうとする二人を招き、その勢いにふれ、応援も込めて、若い笑いを楽しもうと企画されたもの。

大会のDVDをはじめに見て、その後二人が登場するという趣向で約1時間半。

「すごく緊張しました」と語ったが、随所で受けて、出来はまずまずと、ほっとした様子。プロの道を目指す思いを聞かれ、「頑張ります」と、その意気込みをきっぱりと述べ、大きな拍手をあびていた。

(2階大広間 参加者22人)



## 花マットで都市緑化

### 鶴飼教授が講演

## 月次会報告 (3月)

3月の月次会は、群馬大学工学部の鶴飼恵三教



授(副工学部長)を招き、「桐生発の花と緑の技術」と題し、都市緑化の可能性を縦横に広げると期待されている「花マット」について話を聞いた。

この花マットは、植物の根を固め、そこに杉皮や杉炭などを加え、花の種などの着床、さらに生長の促進がはかれるように改良された25センチ四方の植栽土壌であり、鶴飼さんと、同大地域共同研究センター客員教授岩崎春彦さんが開発した「燃やせる土壌」などの技術が生かされている。

これまでは不用とされてきた杉皮の有効利用も図れ、地球環境問題への貢献も期待される。4月21日の「アースデイin桐生2007」では桐生市民

文化会館に花マットを飾って市民にまず披露して、イベントの後はそのまま商店街に移動して、まちを彩ろうという計画を立て、現在、園芸農家の協力によって準備が進んでいると、こんごの取り組みの詳細が説明された。

来年群馬県で開かれる全国都市緑化フェアに向けて、はづみをつけたい考えだ。

(3月28日 一号室 参加者23人)

## 「幻想の世界」 雪原カーニバル

写真部



3月10日午前10時、参加者9名で桐生倶楽部出発。暖冬のためか道路に積雪も無く、順調にトンネルを過ぎると白い山々が見られるようになりました。

魚野の里にて昼食となり、こしひかり定食、ヘギ蕎麦など地元名物を味わい、撮影ポイントにむかいました。

巻機山、八海山、魚の川、清津溪谷を回り予定通り十日町市なかさと清津スキー場（雪原カーニバル会場）に着きました。早速ご婦人たちはボランティアとして雪原にスノーキャンドルの設置に大活躍を致しました。

6時を過ぎ、暗くなると一斉に点火、幻想の世

界の始まりです。たいまつ滑降が始まり、炎の川が描かれ、花火が打ちあがると幻想の世界の頂点！われに戻ると集合時間の7時。バスに向かいました。桐生倶楽部9時40分無事到着。（写真部 森口）



## 関東平野を一望

### 2月の歩く会 足利大坊山

朝9時、参加者11名は3台の車に分乗し足利の長林寺に向かいました。

このお寺は大坊山ハイキングコースの起点として駐車場が整備されています。今日は長林寺から浅間山、あわぎ山を経て大坊山に登り大山祇神社



を経て長林寺にもどる一周コースを歩きます。

山門の前で記念撮影をして9時50分に歩き始めました。登り始めるとすぐに眺望がひらけ遠くに小さく白く輝いている富士山を見ることが出来ました。大坊山迄のコースは尾根歩きでアップダウンが続き岩場もある変化に富んだ面白いコースでした。

また北側には日光連山も見えて雄大な景色を満喫しました。

大坊山は285mと低山ですが、頂上からは南と東にどこまでも続く関東平野が見渡せ眺めは最高でした。山頂で昼食を摂り、下山の途中で中腹にある大山祇神社を参拝しました。今日は季節風がやや強く吹いていましたが2月としては暖かく、里山歩きには絶好の日となりました。

午後1時すぎに全員無事に帰路につきました。

(2月11日 栗原記)

# ようこそ倶楽部へ

## = 新入社員紹介 =

### 桐生倶楽部はぐるま句会

一月

揃ひ打つ団扇太鼓や寒詣り

團はれて一白静か寒牡丹

年初め韋駄天競ふ上州路

傘の内のぞいて見たし寒牡丹

修験者の鋭き声の寒詣

新社殿偉容整ふ初明り

咲くと見せていまだに咲かぬ寒牡丹

コーランに目覚む異国の初明り

遠藤

尾澤

有阪

大槻

森

小池

塚越

久保田

二月

らんぶ提げ黒衣の神父冴返る

還らざる日々を想ひつ日向ぼこ

鶯や二声目はと耳澄ます

鶯の城趾に遊ぶ母子かな

冴返る地蔵詣での小徑かな

冬日和風の音細く草そよぎ

春立ちし庭に番の土鳩かな

小池

有阪

森

遠藤

大槻

塚越

久保田

## = 倶楽部だより =

- 【2月】・歩く会例会「大坊山」 (11日)
- ・理事会 (13日)
- ・歩く会世話人会 (15日)
- ・月次会「チーム・バナナがやってくる」 (21日)
- ・はぐるま句会 (27日)
- 【3月】・写真撮影会「雪原カーニバル」 (10日)
- ・歩く会例会「備前楯山」雨天中止 (11日)
- ・理事会 (12日)
- ・歩く会世話人会 (15日)
- ・はぐるま句会 (27日)
- ・月次会「都市緑化について」 (28日)

### 【入社社員】

澤田 匡宏 清水 貴久 村田 勝俊  
 根岸 利計 赤石 重男 荒居 良生  
 福田 勝巳 近藤 健司

### 【退社社員】

山上 喜一(逝去) 滝本 喬 丸山 正一  
 清水 邦彦 近藤 徹 金谷 利男  
 尾澤 弘一

社団法人 桐生倶楽部会報 第158号  
 2007年(平成19年) 4月発行

発行人 阿部 高久  
 編集責任者 前原 勝  
 印刷 ツボノ印刷株式会社





# 桐生倶楽部会報

〒376-0035 桐生市仲町2-9-36 社団法人 桐生倶楽部 TEL 45-2755

## 折々の出会い 芳名録から

昭和2年8月5日来桐

北きた

沢ざわ

(1887~1980)

新次郎

新次郎しんじろう

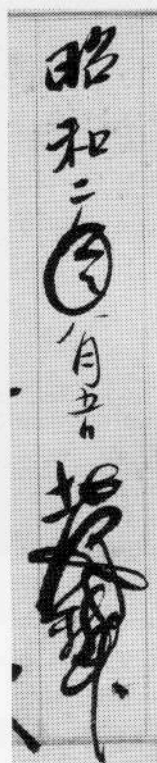
経済学者

植木等さんの著書「夢を食い続けた男」は、父親徹誠さんの波瀾万丈の一代記だが、時代はちょうど桐生倶楽部創建のころ、労働運動に身を投じていた徹誠さんが、当時盛んだった日曜講演で出会った講師の名をあげている。牧野虎次、吉野作造、北沢新次郎、山室軍平、本間俊平。いずれも大正デモクラシーを象徴する顔ぶれぞろいだ。

ここに掲載した芳名録の名はなかなか個性的な字体であり、断定は難しいが、北沢新次郎と読める。来訪は昭和2年8月5日。おそらくは、労働問題の専門家として招いたのであるまいか。

北沢は早稲田大学商学部で教壇に立った。彼の自伝「歴史の歯車」によると、その時期は大正4年4月。5年間の留学を終えて日本に帰ってきて後、とある。大正7年から「工

## 自由な人格という思想



業政策」また「工業経済」などの講義を受け持った。

「労働問題」は専門であり、著者が終始一貫して守ってきた立場は、労働者の人格を認め、労働者も資本家も互いに自由な人格の所持者として対等なのだという思想に裏付けられていた。

彼が集めた労働問題関係の資料は、大正から昭和にかけての貴重なものばかりで、大学の書庫に収蔵されていたが、1945年5月の空襲で焼失した。



10代理事長の肖像画

第十代理事長、塚越平人さんの肖像画がこのほど、2階大広間に掲げられた。理事・塚越紀隆さんの作で、息子の目から見た父の姿でもある。満面に人柄がにじんでいて、好評だ。

# 薫風の庭で心ゆくまで

歓談、  
味覚、  
作品展も力作ぞろい

第33回  
文化祭



33回目を迎える桐生倶楽部文化祭が、ことしも5月11日から3日間にわたり開催され、最終日のガーデンパーティーには80人以上の人が参加し、風薫る5月の庭園で、おいしい料理と歓談のひとときを心ゆくまで楽しんだ。

この日のパーティーでは、入念な準備を行ってきた行事委員らの心遣いが評判となった。カレーや味噌汁、水ぎょうざなど、手のかかった料理が用意され、参加者たちはそれぞれの味をじっくりと堪能。談笑の輪がしぜんと広がり、あたりが暮れるまで、和やかな雰囲気包まれていた。

また、社員とその家族が日ごろたしなんでいる絵画、写真、陶器、俳句など、数々の力作も展示された。

## 葉桜と演奏楽しむ

### 月次会報告(4月)

4月の月次会は「少し遅い花見と演奏会」と題し、フォルクローレの演奏と、葉桜を見ながらの食事とお酒を楽しんだ。

例年になく早い春の訪れ。桜前線は3月の下旬から足早に列島を北上し、桐生市内でも4月上旬には見ごろを迎えた。これも温暖化の影響と思われるが、倶楽部の庭の桜も、満開の時期は花見の宴のほぼ一週間前に過ぎた。しかし、葉桜もまたおつなものと、参加者たちは明かりの灯った庭を眺めつつ、食事を取り、談笑。ギター、シャランゴ、ケーナという楽器構成で繰り出す名曲の数々にじっと耳を傾けていた。

(4月10日、参加者38名)



# ぜいたくなお花見でした



歩く会の4月例会は、金太郎伝説の金時山と石畳の箱根旧街道を歩きました。

4月8日(日)朝5:00桐生倶楽部を出発。参加者23名は一路箱根へ。道中あちこちで桜が満開で眼を楽しませてくれます。道は予想外に空いていて、予定より30分早く「乙女トンネル西口」の乙女峠登山口に到着。金時山は標高1213米、箱根の外輪山の中で一番高い山です。ガイドブックによれば、北側に富士山、東に丹沢山系と相模湾、西に愛鷹山と駿河湾、南に箱根の山々と仙石原・芦ノ湖、北に南アルプスと八ヶ岳連峰を展望しながらの「山行」とのことですが、この日は生憎の曇り空で残念ながら眺望は楽しめません。僅かに眼下に仙石原・芦ノ湖を望む程度で

## 箱根旧街道ハイク 古道彩る山桜、堇

歩く会4月例会

した。標高差500米を2時間半程度かけて登頂、頂上で昼食。

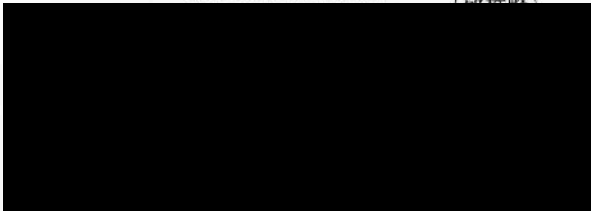
金太郎所縁の「公時(金時)神社」へ下り、バスで箱根旧街道・権現坂まで移動。ここから石畳の古道を4キロ程下ります。石畳は文字通り古い上に苔に覆われていて滑り易く、足元に注意を要します。

道中は散り始めた山桜や足元の堇が眼を楽しませてくれます。途中、「甘酒茶屋」で一服。甘酒ならぬ日本酒をいっぱい(?)の人も。バスが迎えに来てくれる「寄木会館」には15:00に到着。帰路も道は空いていて、予定より1時間早い19:00に倶楽部到着。一人の怪我も無く、全員無事に帰郷。春にふさわしい、ぜいたくなお花見の山行でした。(村田・紀)

# ようこそ倶楽部へ

## = 新入社員紹介 =

(敬称略)



## 新緑の両神山を歩く

「歩く会」5月例会は20日(第3日曜)に標高差860米をひたすら登り続ける奥秩父の名峰「両神山」への山行でした。

前日の荒天が嘘のように、早朝5時には晴天となり参加者18名元気に出発。途中花園「道の駅」で小休止の後、新道の開通した白井差の登山口へ予定より早く7:40着。有料の山道ですが地主の山中さんの好意でガイドをつけていただき、7:50山頂を目指してスタート、20分程で「昇竜の滝」で休憩と写真。そこから徐々に登りとなり、目にも鮮やかな新緑と、数々の草花と野鳥の声、遠くには山肌が削りとられた「武申山」、それに連なる山々が。

とにかく、ゆっくり高度を上げながら、オオドリ河原、水晶坂、ブナ平と歩き易い急坂を登り切って最後のクサリ場から山頂へ10:30着。狭い頂上から少し下って、いつものように?賑やかに、楽しく昼食の後11:20下山となり、同じコースを健脚並みのコースタイムで13:20分登山口へ下山全員完歩!そのままバスで「薬師の湯」へ移動。14:10~15:10汗と疲れを洗い流して、再びバスへ途中2回休憩して17:50倶楽部着。

参加者の皆様お疲れ様でした。

(中里記)



### 桐生倶楽部はぐるま句会

三月

陽炎に揺れつつ来たり村のバス	大	槻
陽炎に揺らぐ安吾碑桐生川	森	
見送りの門に佇つ母かきろへる	遠	藤
水の辺のかきろひ破り竿一閃	有	阪
春光や猫縁側に長く伸び	塚	越
道しるべ陽炎まどふ山路かな	小	池
土筆束持ちて渡しの客となる	久	保田

四月

鞆の風切る子供頬白み	塚	越
春バリー勸進帳のうわさかな	小	池
雪洞の続く参道花吹雪	有	阪
ふらここの足元にある窪みかな	遠	藤
結び目の解ける日和の蝌蚪の紐	大	槻
ふらここの揺れを残して夕暮れる	久	保田

## = 倶楽部だより =

- 【4月】
- ・歩く会例会「金時山」 (8日)
  - ・理事会 (9日)
  - ・月次会「お花見と演奏会」 (10日)
  - ・歩く会世話人会 (17日)
  - ・行事委員会 (19日)
  - ・写真部会 (24日)
  - ・はぐるま句会 (26日)
  - ・麻雀大会 (28日)
  - ・囲碁大会 (28日)
  - ・ゴルフコンペ (29日)

- 【5月】
- ・倶楽部文化祭 (11~13日)
  - ・ガーデンパーティー (13日)
  - ・理事会 (14日)
  - ・歩く会例会「両神山」 (20日)
  - ・歩く会世話人会 (22日)
  - ・はぐるま句会 (28日)
  - ・会員増強拡大委員会 (31日)

### 【入社社員】

山上達也

### 【退社社員】

新井淳一

社団法人 桐生倶楽部会報 第159号

2007年(平成19年) 6月発行

発行人 阿部高久

編集責任者 前原勝

印刷 ツボノ印刷株式会社



# 桐生倶楽部会報

〒376-0035 桐生市仲町2-9-36 社団法人 桐生倶楽部 TEL 45-2755

## 折々の出会い

芳名録から

昭和24年9月24日来桐

後藤守一

(1888-1960)

考古学者

考古学者である。戦前は皇室博物館に勤務、日本古代文化学会の創設にも携わり、國學院大學国史科教授として皇国史観考古学の推進者だった。

昭和18年、登呂の水田地帯で軍需工場を建設中、採土から多くの木製品が出土した。登呂の弥生農耕集落が、はじめて現代にその姿を垣間見せた瞬間である。遺跡の重要性が多くの人から進言され、軍事的な制約の中、遺跡の一部分に限定されたが、発掘調査が行われたのである。

B29の爆撃で被害を受けた登呂に、再び発掘の手が入ったのは昭和22年。考古学者たちは敗戦を機に皇国史観から解放され、新しい日本の歴史を実証で解き明かしたいと考えていた。その第一歩が登呂遺跡の再発掘だった。考古学界に後藤守一の提言で静岡市登呂遺跡調査会が発足した。

そのころ後藤は、明治大学に考古学研究室を創設し、主任教授として研究者育成に励んでいた。

やがてこの明大考古学が、日本の歴史に旧石器時代という新たな1ページを書き加えることになる。岩宿遺跡の発見が新聞に発表されて、「私が想像していた以上の大反響の波が岩宿の丘に集中してきた」と、相沢忠洋著「岩宿の発見」のあとがき

## 明大考古学を創設

にある。そして「明石原人の発見者で有名な直良信夫先生も来られた。明大の後藤守一先生ほかいろいろな先生がたが岩宿にこられた」と。

明治大学考古学研究室の手で岩宿の発掘調査が行われたのが1949年9月11日から3日間であり、杉原莊介によって、新聞発表が行われたのが、20日である。後藤の来館はその4日後のことだが、岩宿のトピックがそこでどのように語られたのかは、わからない。

神奈川県鎌倉市生まれ。代表的な著作は「日本考古学」「日本歴史」「日本の文化」「埴輪の話」「祖先の生活」「日本古代史の考古学検討」



# 市民とともに全力で



## 月次会報告(7月) 亀山市長が 桐生を語る

7月は、桐生市の亀山豊文新市長を講師に招いて、「市民が主役の桐生づくり」をテーマに、こんご4年間、取り組む課題と抱負を聞いた。

今年の4月に初当選し、重責に就いて3ヵ月がたった。「県議というのは自分でスケジュールを立てながらこなせる仕事でした。でも市長は、毎日毎日事が動いて、一つ一つのスケジュールにおわれています」と亀山さん。慌ただしい日々をすごしているようだが、誇り高さふるさとのために最善を尽くしたいと立候補し、当選させてもらった以上、桐生のためにどう役立てるか、「いまはそれだけを考えています」と、力強く語った。

当面の課題としては、まずみどり市との早期合併の実現を目指し、広域調整室の設置、バス路線の再編など、800項目におよぶ格差調整に取り組んでいるという。また、桐生の魅力を全国に発信できる自治体ホームページの構築や、市長交際費や審議会の議事録開示にも積極的だ。

市民と行政の協働をめざし、まちづくり市民会議の創設や市長対話も実施している。行財政改革では、市民による行政サービス評価の導入や経費の徹底的な見直し、市長退職金の50%削減、職員の意識改革もどんどん進めていきたいという。

さらに、子育て支援には桐生独自の特徴を持たせ、医療費助成の拡大や児童手当の増額などはかかるほか、緊急対策として、高齢者問題、企業の流出防止、群馬大学との連携による産業育成、近代化遺産などを活用したまちの活性化、厚生総合病院の充実などをあげた。

この日の参加者は50人。その盛況ぶりは新市長への期待の表れだが、熱心な質問が出て、その一つ一つに丁寧に答える姿がとても真摯で、市政の舵取りに臨む若々しい意欲が伝わってきた。

(7月31日、2階大広間)

## 夏の夜に弦の調べ 月次会報告(6月)

## バイオリンの名曲楽しむ



6月の月次会は「心に和む弦の調べを楽しむ会」と題し、五十嵐晶子さんのバイオリン、山下登美さんのピアノで、クラシックの小品を楽しんだ。

演奏者二人を要にして、扇を開くようにいすを並べたロビーには、1号室での談笑を終えた人たちが、一人また一人と集まり、開演を待った。

バイオリンとピアノの音色は桐生倶楽部のたたずまいにぴったり。演奏はドヴォルザークの「ユーモレスク」やエルガーの「愛のあいさつ」など、なじみ深い名曲が次々と披露され、最後に「エーデルワイス」となり、夏の夜のひとときを、しっかりとみんなでうたいあげた。

(6月26日、1号室、ロビー、参加者20人)

## 7月の歩く会

歩く会7月例会は、信州美ヶ原・標高2千米の雲上のハイキングへ7月29日午前5時出発した。

参加者24名。下界の酷暑が嘘の様な涼しい高原をゆっくりと4時間程のハイキング。たくさんの高山植物と高原美術館の野外彫刻を楽しんだ後、武石温泉・うつくしの湯で汗を流して、午後6時半に倶楽部帰着。楽しい夏休みの一日でした。

(村田記)

## 雲上のハイキング、美ヶ原



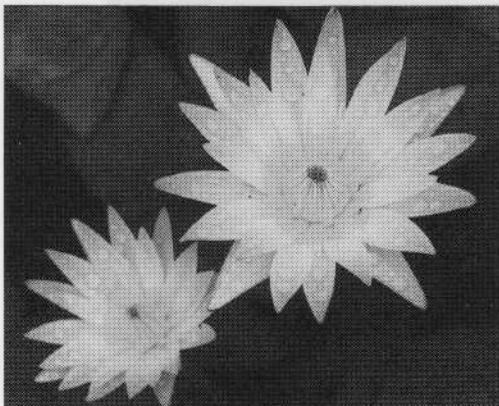
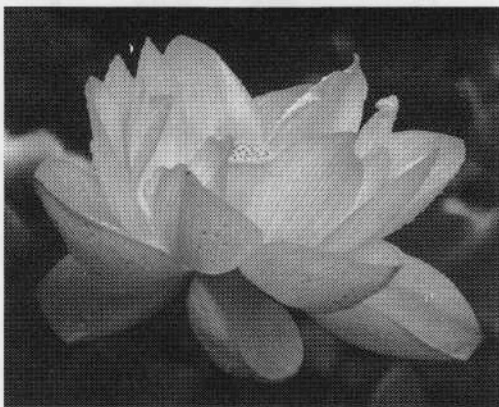


### 足利で写真教室

7月21日、蓼沼敏夫先生のご指導のもと、足利フラワーパークにて梅雨時の花の写し方を学びました。季節の花、睡蓮、古代蓮、バラ、クレマチス、アジサイ、等の写し方、特に花の雫（水滴の中の景色）の写し方は大変に勉強になりました。午前11時終了、途中足利にて昼食、12時に桐生倶楽部着、解散。（参加者14名）蓼沼先生に大変お世話になりました。

季節を変えてアンコールしたいと思います。

(写真部 森口記)



五月  
累代の五輪の塔や緑さす 小池  
新緑の林を抜けて宮参り 塚越  
釣られゆく鮎の一瞬煌めけり 有阪  
お隣りの声の筒抜け夏来る 大槻  
夏めくや庭職人の鉄冴え 久保田

六月  
先頭を信じ切りたる蟻の列 有阪  
川り辺に住みて鶯欲しいまま 小池  
下閣の二度と帰らぬ義貞の碑 遠藤  
父の留守すぐ占領し藤寝椅子 大槻  
藤椅子をゆりつつ孫と戯れる 塚越  
ぼろぼろの思はぬ走り羽脱鳥 久保田

桐生倶楽部はぐるま句会

＝ 倶楽部だより ＝

- 【6月】 ・歩く会例会「尾瀬沼」-雨天中止 (10日)
- ・理事会 (11日)
- ・歩く会世話人会 (12日)
- ・月次会 (26日)
- 「心に和む弦の調べを楽しむ会」
- ・はぐるま句会 (27日)
- 【7月】 ・理事会 (9日)
- ・役員特別懇談会 (18日)
- ・写真部撮影会「蓮の花」 (21日)
- ・はぐるま句会 (27日)
- ・歩く会例会「美ヶ原」 (29日)
- ・月次会「亀山豊文市長 講演会」 (31日)

【退社社員】

駒村 保夫(逝去) 森島愛一郎  
大西 孝政

社団法人 桐生倶楽部会報 第160号  
2007年(平成19年) 8月発行  
発行人 阿部 高久  
編集責任者 前原 勝  
印刷 ツボノ印刷株式会社